

令和2年度 第1回ふるさと向日市創生計画委員会 議事要旨（案）

日 時：令和2年8月21日（金）午後1時から午後2時まで

場 所：向日市福祉会館3階 大会議室

出席者：（委員）

西川委員、高橋委員、中地委員、大浦委員、船倉委員、山舗委員、

松井委員、大釜委員 ※欠席 中村委員長、青山委員

（事務局）

鈴木ふるさと創生推進部長、水上総務部長、山田環境経済部長

小賀野市民サービス部長、福岡建設部長、厳嶋上下水道部長、清水教育部長

林副部長兼企画広報課長、内海係長

（傍聴）

1人

内 容： 以下のとおり

1 開会

開会にあたり、交代委員の紹介を行った。

2 議題

（1）ふるさと向日市創生計画の進捗状況等について

①事務局から資料説明

ふるさと向日市創生計画令和元年度進捗状況等について説明。

②意見交換

（委員）

- ・ 上田家住宅の整備が進んでいない。コミセンにするとか観光ルートにいれるとかのビジョンが決まっていれば教えてほしい。

（事務局）

- ・ 今月から工事が始まり、R3オープン予定。原形をいかしながら休憩、体験ができコミュニティがとれる空間として整備を進める。観光ルートにいれていきたい。

（委員）

- ・ 動きのある観光をすすめていたが、コロナへの対策はあるのか。今は動くのが難しく、Webのメリットが強くなりつつある。今後の種まきとして、Webの使い方をどう考えているのか。向日市にLINEなどあるのか。

（事務局）

- ・ 公式のLINEがありますので、是非登録をお願いします。観光については時代に合った進め方を考えていきたい。次号の広報でお知らせするが、観光写真コンテストをInstagramで募集すること考えている。

（委員）

- ・ 創業件数が年々減っている。相談件数が減っているのか起業意欲が減っているのか。

（事務局）

- ・ 新型コロナウイルス感染症との関連は定かではないが、年度末にかけて見合わせられたものと受け取っている。相談件数は例年通りあった。

（委員）

- ・ 個人事業主への補助金や専門家による経営指導などの支援については知らなかった。

PRはされているか。

(事務局)

- ・ 以前から向日市商工会で創業塾などの経営指導はされている。

(委員)

- ・ 規模にかかわらず、向日市商工会に身近な相談をしてよいものなのか。

(委員)

- ・ すぐに事務局と検討する。広報しているが、届きにくい形になっているのかもしれない。

(委員)

- ・ ライフシティが閉店し活気がなくなった。跡地はどうなるのか。

(事務局)

- ・ 跡地の利用については市で決めるものではない。事業者・所有者側で活用されるものである。市としては民間で有効利用していただき、活気につなげてほしいと位置付けている。

(委員)

- ・ 東向日駅前にはイオン桂川ができてから活気がなくなっている。地元のお年寄りの買い物できる場所を守っていくことが必要ではないか。

(事務局)

- ・ 活気を誘導できるように努めてまいりたい。

(委員)

- ・ 待機児童について、解消する見込みはあるのか。

(事務局)

- ・ 4月1日時点で10人。民間保育所の定員枠を増やしてきたが、来年4月に向けて定員を増やす予定がない。

(委員)

- ・ 北部地域のマンションが増え、今後、JR向日町駅周辺のマンションもできた場合、今は待機児童が縮小しているが、子どもの総数が増えてくる。対応できるのか。

(事務局)

- ・ 保育所は校区のようにエリアは決まっていないので流動的に対応できる。民間事業者で行ってもらう方法もある。土地などの問題もふまえつつ、行政も関わり合いながら、将来的なことを検討してまいりたい。

(委員)

- ・ コミュニティバスの利用状況、今後について。

(事務局)

- ・ 路線バスも含めて、ドライバー不足な中、昨年10月運行を開始できたので、まずはコミュニティバスを走らせ、知ってもらう。春から乗ってもらおうと利用促進事業を行う予定だったが、緊急事態宣言が発令されもどかしい思いである。

これまでの利用者数は北ルートで平均1便あたり約2.0人、南ルートで5.5人。緊急事態宣言が発令された4月は北ルート0.9人、南ルート1.3人だった。

今後はさらに市民の皆さまに便利だと思っていただけるよう、バス停の増設など様々な利用促進策を検討していきたい。

(委員)

- ・ 少ないからやめるといったことは。

(事務局)

- ・ 乗車人数だけで判断できるものではなく、本当に必要な方、交通事業者への影響や外出の機会の増加などトータル的に判断したい。地域公共交通会議においても試験期間の延長が決まったところである。

(委員)

- ・ 防災拠点としての機能を備えた多目的グラウンドの整備検討とあるが、そのような用地

はないのでは。競輪場の用地で何とかしてほしい。どこに逃げたらよいか分からないという高齢者も多い。災害が起こったときに人命にかかわる。向日市は安全だとしっかり示せるとよいのだが。

- ・ コロナについて、向日市の発生件数多いが、具体的な情報が無く不安。誰がどこで雇ったなどの情報は出しにくいのか。

(事務局)

- ・ 防災拠点としての機能を備えた多目的グラウンドについては、まとまった土地がなく、調整区域の農地も活用が難しく、明確な場所の選定はできないが、検討をしている。
- ・ コロナに関しては様々な意見が出ており、時期によって、その人の立場によっても変わっている。情報は京都府がもっていて、市には具体的な情報が入ってこない。不安な気持ちをもっている方もいるが、全国報道には中傷ビラといった事案もあり、具体的な情報発信はしていない。

(委員)

- ・ ふるさと向日市への愛着と誇りをはぐくむ「ふるさと学習」の充実とあるが、具体的には。

(事務局)

- ・ 向日市に生まれ育ち、向日市がふるさとだと実感してもらおう。社会人になっても住んでもらえるように、小学生のうちから向日市のいいところをみてもらい、良さを学習する場を設けている。

(委員)

- ・ 昨日、テレビで竹の径や地元業者の竹細工、風鈴の実習などが紹介されていたが、マスコミを使ったPRはこれからも予定があるのか。

(委員)

- ・ 観光協会としてはマスコミに依頼していないし、PRもできていない。様々な媒体を使うというのはこれからの大きな課題である。

(委員)

- ・ 昨日の番組は、「もうひとつの京都」ということで、「竹の里 乙訓」を取り上げてもらった。宣伝するために仕込んだのではなく、京都府が情報を提供し、番組主導でつくってもらい、放送された。向日市の中でお土産物や観光交流センターなどで新しいことを始めていく時は、京都府も一緒になって働きかけていきたい。

(委員)

- ・ 給付金の影響で、個人番号カードの普及率は上がっているか。

(事務局)

- ・ 給付金に加えマイナポータル開始にあたり申請数は増え、現在は約20%になっている。

2 その他

(委員)

- ・ 市政の、より一層の充実に取り組んでいただきたい。
- ・ 商工会としては補助金、相談会などについて検討する。

(事務局)

- ・ 今年度の委員会は1回のみとなる。本日のご意見をふまえて市政のより一層の充実に取り組んでいく。

閉会

令和２年度 第１回 ふるさと向日市創生計画委員会

日 時：令和２年８月２１日（金） 午後１時から
場 所：向日市福祉会館３階 大会議室

次 第

１ 開 会

２ 議題

ふるさと向日市創生計画の進捗状況等について
地方創生交付金事業について

３ その他

４ 閉 会

ふるさと向日市創生計画の進捗状況等について

ふるさと向日市創生計画の令和元年度進捗状況等について報告します。

取組の進捗状況

区分	状況	件数	取組	資料頁
済	完了	13 R1:2件 過年度:11件	・歴史文化拠点の整備 ・金融支援方策の充実の検討 ・商工業振興センターの整備 ・市役所機能の一部を東向日周辺に移転 ・都市計画マスタープランの改訂 ・安全な踏切道の整備 ・歴史的風致維持向上計画に整合した公園整備 ・竹を材料とした「竹の公園」の整備 ・新たな地域公共交通手段としてコミュニティバスの導入（R1） ・災害用仮設給水栓の確保 ・物集女西浄水場及び配水池の耐震化（R1） ・中学校給食の実施 ・男女共同参画拠点（女性センター）の整備	1 4 4 8 8 9 10 10 20 21 26 32 40
S	計画以上に進んでいる	0		
A	計画どおり進んでいる	92		
B	計画より遅れている	15	・土産等特産品の開発（観光） ・観光バスも利用できる駐車場の整備、特産品販売所の開設 ・向日市検定の実施 ・特産品の育成・開発への支援（農業） ・農商工の連携による市内産業の活性化 ・都市計画道路及び幹線市道の整備 ・家庭ごみの発生抑制及び事業系ごみの排出抑制 ・雨水タンクの助成制度創設と推進 ・老朽化等に対応するための学校施設長寿命化の検討 ・トイレ改修の計画的な推進 ・文化事業の充実	2 2 3 5 5 6 18 22 32 32 35

			・地域コミュニティの活性化 ・市民協働の拠点施設の見直し ・行政手続きの電子化による効率的な行財政運営の推進 ・公共施設等総合管理計画の策定と推進	37 37 41 41
C	未着手	0		
計		120		

目指す姿・目標の達成状況

区分	状況	件数	姿・目標	資料頁
済	達成	38 R1:22件 過年度:16件	・観光入込客数 (R1)	2
			・観光振興プラン策定	2
			・「かぐやの夕べ」「向日市まつり」等の市内外への広報活動による来場者数 (R1)	3
			・経営指導数 (R1)	4
			・愛菜楽市出品農家数	5
			・市道第 2013 号線阪急変電所前踏切の整備完了	9
			・市民ふれあい広場や大極殿公園等の整備	10
			・向日市産の竹材を用いた公園整備完了	10
			・年間出生数 (R1)	11
			・子育てコンシェルジュによる妊婦の面接 (R1)	11
			・地域子育て支援拠点増加	11
			・地域子育て支援拠点の延べ利用者数 (R1)	11
			・子育てハンドブックの作成	11
			・祖父母手帳の作成	11
			・待機児童（前年度より減少）(R1)	12
			・保育所定員 (R1)	12
			・各種健康・介護予防事業参加者数 (R1)	14
			・地区別地域ケア会議の開催 (R1)	14
			・手話通訳者の配置 (R1)	16
			・計画相談支援 作成率 (R1)	16
			・就労移行支援事業の利用者数 (R1)	16
			・地域の見守りネットワーク事業協定事業者数 (R1)	17
			・集いの場づくり（事業数）	17
			・コミュニティバスの導入 (R1)	20
			・仮設給水栓の増設	21
			・応急給水用袋の確保	21
			・防災マップの全戸配布	22
			・和井川 1 号幹線ルート決定及び事業計画の策定	22
			・救命講習の受講者数 (R1)	23
			・マンホール等管路施設の内部点検及び修繕	25
			・下水道管路施設の長寿命化を図るため、点検、調査及び補修を実施 (R1)	25
			・配水池の耐震化	26

			・物集女西浄水場の耐震化 (R1) ・重大ないじめの発生件数 (R1) ・中学校給食の実施 ・学校支援地域本部事業を全市立小中学校 (9校) で実施 (R1) ・成人の週 1 回以上のスポーツ実施率 (R1) ・LINE お友達登録者	26 32 32 34 36 37
S	計画以上に成果が出ている	0		
A	計画どおり成果が出ている	53		
B	計画どおりではないが一定成果が出ている	32	・文化資料館入館者数 ・朝堂院公園来訪者数 ・観光消費額 ・特産品開発件数 (観光) ・本市に対する市民の定住意向の割合 ・向日市検定申込者数 ・市内の創業件数 ・市内で生産された農産物や商工特産品の常設販売所 ・道路整備 ・通学路の整備 ・バリアフリーに配慮した歩道の整備 ・自転車通行レーンの整備 ・ゾーン 30 区域の拡大 ・歴史的風致維持向上計画と整合した景観計画の策定 ・住宅耐震化率 ・特定健診の受診率 ・乳がん検診の受診率 ・地域包括支援センターによる訪問回数 ・認知症チェックサイトへのアクセス件数 ・徘徊 SOS ネットワーク協力事業所 ・地域福祉懇談会の開催 ・ごみ排出量 ・雨水タンクの設置	1 1 2 2 3 3 4 5 7 7 7 7 7 8 8 13 13 14 15 15 17 18 22

			・重要な管路（基幹管路）の耐震適合率 ・学校の授業時間以外の勉強時間が平日 1 日当たり 30 分に満たない子どもの割合 ・国語や算数・数学、英語の勉強が「好き」な子どもの割合 ・人が困っているときは進んで助けようとする子どもの割合 ・将来の夢や目標をもっている子どもの割合の増加 ・今住んでいる地域の自然や歴史について関心がある子どもの割合 ・不登校の児童生徒の割合 ・「市民と行政における協働のまちづくり」に対する満足度の向上 ・住民票や印鑑登録証明等のコンビニ交付開始	26 27 27 28 28 30 32 37 41
C	成果が出ていない	4	・特産品開発件数（農業） ・（仮称）桂川向日スマートインターチェンジを開設 ・建物火災 0 件 ・新体力テストにおける全項目において、全国平均を上回る	5 8 24 29
計		1 2 7		

施策1 歴史文化資源の整備と活用

基本方向

○史跡長岡宮跡や古墳群等市内に所在する文化財の保護及び積極的な整備・活用に努め、歴史・文化資源を活かしたまちづくりを推進し、未来に継承します。

○市内外の人々が集い交流できる歴史文化拠点を整備します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
歴史文化拠点の整備		済	企画広報課 文化資料館
史跡長岡宮跡や古墳群の整備の推進	【史跡長岡宮跡】 ・「内裏内郭築地回廊・外郭築地地区」及び旧上田家住宅の保存と活用のため、整備工事の設計を行った。 【史跡長岡宮跡】 ・市内史跡の適切な保存と活用の促進のため、史跡長岡宮跡保存活用計画の策定事業を行った。 ・向日市の文化遺産①むこうし歴史探検マップ③長岡宮⑦五塚原古墳の日本語パンフレットを英語への翻訳等を行った。 【史跡乙訓古墳群】 ・史跡乙訓古墳群の内、五塚原古墳及び寺戸大塚古墳を適切に保護するために公有化を図った。	A	文化財調査事務所

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
史跡長岡宮跡や古墳群等の魅力あふれる全国に知られたまち	図書館・文化資料館開館35周年記念特別展「昭和モダンと向日町」を通じて、高い交通利便性や明るい風土、陶芸に適した土壌などを背景に多くの学者や芸術家が居住し、文化的な雰囲気 に満ちていた昭和初期頃の向日町の様子を紹介することができた。また、企画展「戦国時代の物集女と乙訓・西岡」では、国宝、重要文化財を含む貴重な資料を多数展示し、京都の動向にも影響を与える重要な存在だった戦国時代の乙訓地域の武士たちの動向を紹介することができた。（文化資料館） 【史跡長岡宮跡】 ・「朝堂院公園」に案内員を配置し、史跡をはじめ市内の歴史・文化遺産の案内を実施した。 ・「朝堂院公園」において、古代衣装の貸出、ペーパークラフトやVRゴーグルの進呈、関係機関等と連携事業を実施し、地域振興や観光振興に努めた。 ・史跡長岡宮跡の理解を深めるため、朝堂院西第四堂の建物をポリ塩化ビニルで約二分の一の大きさで復元し、空気で膨らませることで立ち上がり、中で飛んだり跳ねたり遊ぶことができる「史跡長岡宮跡復元体感具『ふわふわ！朝堂in』」を活用し、文化財に関する催し等で、子供たちが楽しみながら歴史に親しめる機会を設けた。 【史跡乙訓古墳群】 ・「物集女車塚古墳」の横穴式石室の一般公開を実施した。（文化財調査事務所）	A	企画広報課 文化資料館 文化財調査事務所
文化資料館入館者数 → H26:11,508人 H31:17,000人	令和元年度 15,337人 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年2月以降は入館者数が大きく減少し、目標である17,000人には到達しなかった。しかし、令和2年1月までは前年度を大きく上回る入館者があった。年度合計としては前年度に比べ124人の微減に留まり、新型コロナウイルスの影響を考慮すれば、一定の成果が出ているといえる。 (参考) 平成27年度 11,362人 平成28年度 13,153人 平成29年度 15,018人 平成30年度 15,461人	B	文化資料館
朝堂院公園来訪者数 → H26: 6,645人 H31:10,000人	令和元年度 7,506人 夏季から秋季の荒天により例年に比べ来訪者が減った。 (参考) 平成27年度 8,218人 平成28年度 10,555人 平成29年度 9,195人 平成30年度 8,455人	B	文化財調査事務所

達成状況「済」…達成「S」…計画以上に成果が出ている「A」…計画どおり成果が出ている「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅰ 歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり

施策分野1 歴史あふれるまちづくりの推進

施策2 観光振興の推進

基本方向

○本市が誇るべき歴史・文化資源を活かし、地域経済の活性化を図り、また、国内外から積極的に観光客を誘致するため、ハード・ソフト両面での総合的、多角的な観光施策を推進します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
観光戦略プランの推進	プラン推進状況について、策定委員会の委員長であった有識者と協議、評価をいただき、今後の観光推進の方向性を整理することが出来た。	A	企画広報課
土産等特産品の開発	向日市観光協会と連携し、市内イベントやパーキングエリア等において、開発したお土産品のPR及び販売を行った。	B	企画広報課
観光バスも利用できる駐車場の整備、特産品販売所の開設	向日市観光交流センターの建設工事に着手した。(令和2年度中工事完了予定)	B	企画広報課
ホテル等の複合型宿泊施設の誘致	複合型宿泊施設の誘致に向けて、阪急洛西口駅西地区まちづくり協議会と選定された事業協力者の地区計画素案作成の支援を行った。	A	企画広報課 まちづくり推進課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
「観る・食べる・買う」ことができ、まちぐるみで来訪者を温かく迎えることができるまち	観光人材育成事業「むこう観光スタートアップ講座」を開講し、観光を通じてまちづくりを担う人材を育成することができた。 また、乙訓地域の玄関口となるJR向日町駅北側に、観光バスや自家用車が利用できる駐車場をはじめ、観光情報の発信や市内で生産された農産物、商工特産物の直売所、そして、地域の方々も利用いただける地域交流スペースなど各種機能を備えた向日市観光交流センターの建設工事に着手することができた。	A	企画広報課
自動車や観光バスで訪れることができるまち	大型観光バスや自家用車が利用できる駐車場を備えた向日市観光交流センターの建設工事に着手することができた。	A	企画広報課
観光入込客数 【H26:260,000人 → H31:390,000人】	R1(1～12月):551,379人 H30年比41,338人増加 向日市まつりや竹の径、桜まつりの入場者増加等により入込客数が増加した。	済	企画広報課
観光消費額 【H26:87,000千円 → H31:200,000千円】	R1(1～12月):156,911千円 H30年比5,594千円増加 向日市まつりや桜まつりの入場者増加により消費額が増加した。	B	企画広報課
観光振興プラン 【H28:策定】		済	企画広報課
特産品開発件数 【H26:ー → H31:20件】	開発延べ件数:7件／目標20件 これまで開発した商品を向日市観光協会と連携し、市内イベントやパーキングエリア等で販売することで、土産品を通じた市の魅力の更なる発信と拡散を図ることができた。	B	企画広報課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅰ 歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり

施策分野1 歴史あふれるまちづくりの推進

施策3 まちの魅力の戦略的発信

基本方向

○ふるさと向日市に対する理解と愛着を深められるよう、歴史の事実とまちの魅力を市内外に戦略的に発信します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
ふるさと向日市のPRの推進	大型商業施設(イオンモール京都桂川)において、イベント、ワークショップ等を行い、市の魅力の発信を行った。また、公共交通、公用車、デジタルサイネージを活用した広報活動に加え、インスタグラムを活用して本市の歴史・文化資源の魅力について情報発信を行った。	A	企画広報課
向日市検定の実施	初級、中級、上級の3つの区分を設けた「第4回向日市ふるさと検定」を開催した。 申込者数 638人（延べ3,094人/目標5,000人）	B	企画広報課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
「古都のむこう、魅力のふるさと」と思っただけのまち	PRポスター「むこう、むこう。」のデザインを新しくし、公共交通機関等での掲示した。また、インスタグラムでの写真投稿、大型商業施設(イオンモール京都桂川)でのイベントを行い、市のPRに繋げることができた。 イベント参加者延べ人数 2,645人 インスタグラム投稿件数 229件	A	企画広報課
「かぐやのタベ」「向日市まつり」等の市内外への広報活動による来場者数 H26:ー → H31:H27実績比50%増	H27年度比236.3%増(R1:190,000人←H27:56,500人) (内訳) 「かぐやのタベ」 R1: 30,000人(H27年度比 361.5%増 (H27:6,500人)) 「向日市まつり」 R1:160,000人(H27年度比 220%増 (H27:50,000人))	済	企画広報課
本市に対する市民の定住意向の割合 【H27:73.8% → H31:80%以上】	76.7% 目標値には達しなかったが、H27よりも2.9ポイント増加した。市の魅力の向上・発信等により、市への愛着を深めていただくことができた。	B	企画広報課
向日市検定申込者数 【H31:延べ5,000人(5年間で)】	延べ申込者数 3,094人 / 目標 5,000人（達成率 61.9%） 引き続き、初級、中級、上級の3つの区分で実施することで、ふるさと向日市の魅力をより深く理解していただく機会を提供することができた。	B	企画広報課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅰ 歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり

施策分野2 産業の活性化

施策1 商工業の活性化

基本方向

○歴史を活かしたまちづくりの施策と連携しながら、商工業者の育成や誘致を支援する取組を推進し、市内商工業の振興、活性化を図ります。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
大型商業施設との差別化を図った魅力的な店づくりへの支援	市内の小規模事業者が差別化を図ることができるよう、向日市商工会が行う経営改善普及事業に対して助成を行った。 ①市内小規模事業者等の経営(事業)計画書作成支援(作成件数34件)②経営力向上や事業分野ニーズに応じたセミナー・講習会の開催(8回)③事業所に対する各種補助金・計画認定申請の支援(採択件数31件)	A	産業振興課
事業所の要望・相談等及び進出する事業所に対応する窓口体制の整備	向日市商工会に対して、市内中小企業者を対象とする税務相談を委託し事業所の相談に対応したほか、創業支援事業補助金を交付し、市内での創業を希望するなど進出する事業所に対し支援を行った。 また、創業者への支援を充実するため、市内の金融機関と合同会議を実施するなどによって、状況把握に努めるとともに、融資制度の工夫などの支援体制について検討を行った。 (税務相談件数 H27:30件、H28:20件、H29:20件、H30:20件、R1:19件)	A	産業振興課
金融支援方策の充実の検討		済	産業振興課
商工業振興センターの整備		済	産業振興課

進捗状況「済」…完了「S」…計画以上に進んでいる「A」…計画どおり進んでいる「B」…計画より遅れている「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
市外からも買い物客が訪れる活気にあふれる商店があるまち	阪急東向日駅周辺において、市役所東向日別館と食料品を扱う大規模小売店舗の複合施設の相乗効果により、周辺を訪れる買い物客などが定着し、まちが活性化した。また、大規模小売店舗では、地元事業所の商品を積極的に販売するなど販路が拡大した。	A	産業振興課
事業所が意欲をもって経営ができるまち	生産性向上特別措置法に基づき、取得した設備に係る固定資産税の特例率をゼロとすること等によって、事業所の投資意欲を喚起し、1件の事業所が投資を行った。	A	産業振興課
経営指導数 【H26:900件 → H31:H26実績比10%増】	R1:1,383件(H26 対比154%) 向日市商工会経営支援員による事業者との訪問や窓口での相談を実施	済	産業振興課
市内の創業件数 【H31:20件(5年間で)】	H27:6件、H28:4件、H29:2件 H30:3件、R1:1件 合計16件 創業者に対する補助金の交付と専門家の経営指導による創業支援を行い、新たに1件の創業に繋がった。	B	産業振興課

達成状況「済」…達成「S」…計画以上に成果が出ている「A」…計画どおり成果が出ている「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅰ 歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり			
施策分野2 産業の活性化			
施策2 農業の活性化			
基本方向			
○新鮮で安心・安全な農産物を提供するために地産地消を推進するとともに、新たなブランド農産品の開発の支援や農業資源を活用した農商工の連携により、やりがいのある農業経営を支援します。			
取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
地産地消の拡大	土曜日（年間30回程度）に開催していた愛菜楽市を平日（開庁日）開催に移行したことで、購入者から「新鮮な向日市産農産物が毎日買えてうれしい」などの好評を得る等、来場者や出品数、売上高が増加するなど地産地消の拡大を図ることができた。	A	産業振興課
耕作放棄地の防止施策や放置竹林対策の実施	農業委員会による農地パトロール及び所有者への利用意向調査を実施した。 平成29・30年度に整備した適正管理モデル竹林の継続可能な維持管理方法として、竹林ボランティアの募集を開始した。今後たけのこの生産活動体験を通じて、ふるさと向日市への愛着や市民同士の交流を深めながら、美しい竹林景観の保全を進めていく。	A	産業振興課
特産品の育成・開発への支援	愛菜楽座会員や若手の農業者とともに、市場ニーズのある農作物の育成や独自品種の開発について検討を重ねてきたが、平成30年7月に発生した台風21号により、甚大な農業被害を受けることとなった。国、府と連携し、被災した農作物・農業用施設の復旧支援を行ったが、新たな特産品の育成や開発には至らなかった。	B	産業振興課
農商工の連携による市内産業の活性化	おとくに軽トラ朝市や愛菜楽市などの農産物直売会において、商工品の販売を行うことにより、販売拡大と活性化に努めた。 また、次年度に開設予定の向日市観光交流センターにおいて、農商工の連携による相乗効果の創出について検討を行った。	B	産業振興課
進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手			
目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
意欲ある生産者や新たな担い手がいきいきと農業経営ができるまち	愛菜楽市の平日開催が定着化したことで、農業者の販売が拡大した。 農業経営基盤強化促進法に基づき農地の利用権を設定し、意欲ある農業者に農地を集約させることにより、農業経営の強化促進を図ることができた。	A	産業振興課
愛菜楽市出品農家数【H27:20件 → H31:30件】		済	産業振興課
特産品開発件数【H26: ― → H31:3件】	意欲ある農業者から野菜の新品種や果樹栽培など新たな取り組みの相談を受け、実証圃の検討を行ったが、新規特産品の開発にはいたらなかった。	C	産業振興課
市内で生産された農産物や商工特産品の常設販売所【H26: ― → H31:1か所設置】	観光バスや自家用車が利用できる駐車場をはじめ、観光情報の発信や市内で生産された農産物、商工特産物の直売所など、各種機能を備えた向日市観光交流センターの建設工事に着手することができた。	B	企画広報課
達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない			

施策の柱Ⅰ 歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり			
施策分野3 都市基盤の整備			
施策1 道路整備の推進 基本方向 ○都市計画道路や幹線市道の整備を推進することで幹線道路のネットワークを構築し、活力と魅力あるまちを目指します。 ○市民生活に密着した生活道路・細街路の整備を推進することで、安全で快適な住環境づくりを目指します。			
取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
都市計画道路及び幹線市道の整備	- 広域の道路ネットワーク構築を図るため、都市計画道路桂寺戸線が竣工し、供用を開始した。 - JR向日町駅東口へのアクセス道路となる市道第3064号線は、寺戸川と交差する野田橋改良工事の完了とともに道路拡幅を実施した。また、森本東部のまちづくりとの調整を図った。 - バリアフリー特定経路であり、市役所に隣接する寺戸幹線6号について、歩道が無い区間の拡幅整備を実施した。 拡幅整備に必要な用地の取得交渉が難航している路線や隣接地区のまちづくりとの工程調整が必要な路線等、計画より遅れている箇所がある。	B	道路整備課
生活道路・細街路の整備	- 市道第4017号線において、安全な歩行空間の確保するための道路側溝の有蓋化等を行った。 - 通学路安全対策プログラムの推進に向けて、通学路の安全対策整備を行った。	A	道路整備課
交通安全対策の一層の推進	- 自転車通行レーンの整備については、継続事業の完了に向けて、段階的な整備が図れた。 - ゾーン30区域については、警察、京都市と区域拡大のための協議を行った。 - カーブミラー、区画線、防護柵などの道路附属物施設の新設及び更新を行った。	A	道路整備課
進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手			

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
整備完了路線【都市計画道路桂寺戸線、向日市道第2013号線、第3031号線、第2087号線、寺戸幹線1号、寺戸森本幹線2号、寺戸幹線6号（H31）】	- 都市計画道路桂寺戸線:道路築造工事完了 - 市道第2013号線:水路の暗渠化及び歩道整備 - 市第3064号線:拡幅整備 - 寺戸森本幹線2号(JR東側):道路設計を実施 - 寺戸幹線6号:用地買収及び歩道新設工事 (過年度整備完了路線:2路線) 拡幅整備に必要な用地の取得交渉が難航している路線や隣接地区のまちづくりとの工程調整が必要な路線等、計画より遅れている路線がある。	B	道路整備課
生活道路・細街路の整備【10路線整備完了(H31)】	- 市道第4017号線:改良工事完了 - 市道第4047号線:改良工事完了 - 市道第2263号線:道路側溝の有蓋化 (過年度整備完了路線:7路線)	A	道路整備課
通学路の整備【10箇所整備完了(H31)】	- 市道第1076号線:歩道整備完了 - 市道第3008号線:歩行空間整備完了 - その他、用地取得に向けた交渉や関係機関との協議を行った。 (過年度整備完了路線:4箇所)	B	道路整備課
バリアフリーに配慮した歩道の整備【10箇所整備完了(H31)】	- 寺戸幹線6号:歩道の整備 - 市道第1076号線:歩道整備の完了 (過年度整備完了箇所:7箇所)	B	道路整備課
自転車通行レーンの整備【3路線整備完了(H31)】	市道第4047号線:水路の暗渠化完了、歩道整備の後、自転車通行レーンの整備 (過年度整備完了路線:2路線)	B	道路整備課
ゾーン30区域の拡大【H26:1箇所22ha → H31:2箇所30ha】	現在のゾーン30区域を北側へ拡大するため、警察・京都市と協議を行った。	B	道路整備課
達成状況「済」…達成「S」…計画以上に成果が出ている「A」…計画どおり成果が出ている「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている「C」…成果が出ていない			

施策の柱Ⅰ 歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり

施策分野3 都市基盤の整備

施策2 快適で安全便利なまちづくり

基本方向

○アクセス拠点の整備等、市民の利便性の向上と産業・観光の振興を図るとともに、都市計画制度を活用した快適で安全便利なまちづくりを推進します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
市役所機能の一部を東向日周辺に移転		済	総務課
名神高速道路スマートインターチェンジ開設事業の推進	調査検討結果を基に、実現可能な整備手法・スキームについて検討を行った。	A	まちづくり推進課
土地利用の転換による事業所の誘致事業の推進	阪急洛西口駅西地区まちづくり協議会について、地区計画案の策定のための支援を行った。 森本東部地区まちづくり協議会について、地区計画の策定と区画整理組合設立のための支援を行った。	A	まちづくり推進課
住宅の耐震化促進	多くの市民の方が集まる向日市まつりにおいて耐震ブースを2日間設置し、住宅耐震化の普及・啓発に努めた。さらに、向日市まつりや東向日別館において、耐震シェルター模型展示を東向日別館で5日間、向日市まつりで2日間行い、普及啓発に努めた。 また、3月を強化月間と定め、耐震事業の普及啓発を強化した。 令和元年度木造住宅耐震診断・改修事業実績：耐震診断15件、耐震改修11件、簡易改修20件	A	公共建物整備課
景観計画の策定に向けての調査	景観計画策定については地域特性に応じた規制誘導が必要となるため、地域住民との合意形成を図ることが重要であることから、都市計画法に基づく地区計画制度を活用し、景観に関する西向日地区地区計画策定について、昨年度に引き続き支援業務を行った。	A	都市計画課
都市計画マスタープランの改訂		済	都市計画課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
より便利で、より身近と感じられる安心・安全なまち	歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくりを進めることを目的として、「人が集う ふるさと向日」を都市計画の目標とした「第3次向日市都市計画マスタープラン」の策定を行った。また、本市の特性を踏まえ、暮らしの場である既成市街地において、まちの顔として人を呼び込みにぎわいを創出する場と安全・快適に居住できる場を計画的に誘導するため、都市再生特別措置法に基づく「立地適正化計画」を、第3次向日市都市計画マスタープランに含め策定した。（都市計画課） 京都府が実施する府道拡幅整備において、用地交渉や事業調整を全力で支援しており、府道西京高槻線（物集女街道）の物集女工区においては拡幅工事が完了した。また、寺戸工区においても過年度整備完了の北側区間を引き続き整備を行うにあたり、物集女街道プロジェクトチームを発足し事業進捗を図った。（道路整備課） 木造住宅耐震をより促進するため、耐震シェルターの模型を展示するなど、安全・安心な住環境へ向け、住宅の耐震補強について積極的に広報した。（公共建物整備課） まちづくり協議会のまちづくり計画案策定に対する支援を行うとともに、円滑なまちづくり事業の実施に向けて関係機関との協議を行った。（まちづくり推進課）	A	都市計画課 道路整備課 公共建物整備課 まちづくり推進課
（仮称）桂川向日スマートインターチェンジを開設	調査検討結果を基に、実現可能な整備手法・スキームについて検討を行った。	C	まちづくり推進課
都市計画制度（地区計画等）を活用し、企業・事業所の誘致計画の策定	森本東部地区については、地区計画の都市計画決定を行った。 阪急洛西口駅西地区については、まちづくり協議会と事業協力者である京阪電鉄不動産(株)の地区計画素案作成支援を行った。	A	まちづくり推進課
歴史的風致維持向上計画と整合した景観計画の策定	昨年度に引き続き西向日自治会に対し、地区計画の策定支援を行い、自治会全体の計画策定に係る意識の醸成を図ったが、自治会内の合意形成に課題が残ったことから、計画策定に至らなかった。	B	都市計画課
住宅耐震化率 【H25:75% → H31:95%】	H30:82.9%(H30住宅・土地統計調査)	B	公共建物整備課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅰ 歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり			
施策分野3 都市基盤の整備			
施策3 鉄道関連事業の推進			
基本方向			
○JR向日町駅東口を整備し、駅への利便性や安全性を向上させることで、市内東部地域をはじめ市全体の活性化を図ります。			
○阪急東向日駅及び西向日駅について、「古都のむこう、魅力のふるさと」にふさわしい整備を行い、歴史・文化資源への誘導を図ります。			
取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
JR向日町駅東口地域の整備	駅東口へのアクセス道路となる市道第3064号線は、寺戸川と交差する野田橋の改良を含め道路の拡幅改良工事を実施した。(道路整備課) JR向日町駅東口開設に向けて、市街地再開発等の事業調査を実施し、地権者や鉄道事業者との合意形成を進めた。(まちづくり推進課)	A	道路整備課 まちづくり推進課
阪急東向日駅及び西向日駅周辺整備	・ 東向日駅前広場整備に向け先行取得した用地について買戻しを行い、照明柱の設置を実施し、周辺の照度を確保し、安全確保に努めた。 ・ 西向日駅前において過年度に取得した道路事業用地について道路拡幅改良工事を実施した。(道路整備課)	A	道路整備課 企画広報課
安全な踏切道の整備		済	道路整備課
阪急京都線連続立体交差事業の調査の推進	調査検討結果を基に、実現可能な整備手法・スキームについて検討を行った。	A	まちづくり推進課
進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手			
目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
地元まちづくり協議会や周辺事業所と協働でJR向日町駅東口及び関連する都市計画道路(牛ヶ瀬勝龍寺線等)の整備	都市計画道路牛ヶ瀬勝竜寺線について道路設計を実施し、森本東部地区土地区画整理組合と協議を行った。 寺戸森本幹線2号は、道路設計を実施。 市道第3064号線は、野田橋改良工事が完了し道路拡幅工事を実施した。(道路整備課) JR向日町駅周辺地区まちづくり協議会において、都市計画素案や市街地再開発準備組合設立について、地権者や鉄道事業者との合意形成を進めた。 都市計画道路「牛ヶ瀬勝竜寺線」の整備に向けて、森本東部土地区画整理組合と公共施設管理者負担金の覚書を取り交わした。(まちづくり推進課)	A	道路整備課 まちづくり推進課
阪急東向日駅周辺整備	東向日駅前広場整備に向け先行取得した用地について買戻しを行い、当該用地内に照明柱を設置し、周辺を明るく安全確保に努めた。	A	道路整備課
阪急西向日駅の改築及び周辺道路、桜の径の整備	西向日駅前において過年度に取得した道路事業用地について道路拡幅改良工事を実施した。	A	道路整備課 企画広報課
市道第2013号線阪急変電所前踏切の整備完了		済	道路整備課
阪急京都線連続立体交差事業の事業概要計画の策定	調査検討結果を基に、実現可能な整備手法・スキームについて検討を行った。	A	まちづくり推進課
達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない			

施策の柱Ⅰ 歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり

施策分野3 都市基盤の整備

施策4 公園緑地の整備と緑の保全

基本方向

○市民や来訪者が憩い、やすらぐことができる場として、歴史・文化・景観資源を最大限活かした夢のある公園整備を推進します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
歴史的風致維持向上計画に整合した公園整備		済	公園交通課
古墳等歴史資産を活用した公園緑地整備	五塚原古墳の市有化に伴い、今後の整備の方向性について関係各課と整理を図った。	A	公園交通課
竹を材料とした「竹の公園」の整備		済	公園交通課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
歴史・文化・景観資源を活用した公園のあるまち	上植野城公園の四ツ目垣更新など、歴史・文化・景観資源を活用した整備を行うことで、市民の皆様に身近で親しみやすく魅力のある公園となった。	A	公園交通課
市民ふれあい広場や大極殿公園等の整備		済	公園交通課
はり湖池周辺緑地や勝山公園緑地等の公園緑地整備	勝山公園において遊具の更新を行うことで安全性を向上させるとともに、樹木剪定を行い、市民の皆様が安心して遊べる公園緑地として整備した。	A	公園交通課
向日市産の竹材を用いた公園整備完了		済	公園交通課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野1 少子化対策・子育て支援

施策1 安心して産み育てる体制づくり

基本方向

○安心して子どもを産み、健やかに育てることができるよう、妊娠期から継続的に支援できる環境を整備します。また、育児支援や親子の交流促進を図る等地域ぐるみで子育てを応援します。

○すべての子どもの成長・発達に応じた専門的な支援をするため、母子保健対策を充実します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
妊娠から子育てまでの切れ目ない支援体制の充実	安心して子どもを産み、健やかに育てることできるよう、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のないきめ細やかな相談支援を行った。 妊婦全員に面接とアセスメントを行い、産前産後サポート事業、養育支援・子育て短期支援事業につなげる支援体制が確立できた。 (1)子育てコンシェルジュにおける相談実績 妊婦 523人(うち転入妊婦48人) 妊・産婦相談 361人 転入児 202人 乳幼児相談 283人 【 総相談件数 1,369人 】 *妊婦全員に面接後アセスメントを行い、必要な妊婦に個別支援プランを作成し、継続支援を行った。 R1アセスメント結果： 要支援49.1% ハイリスク支援1.9% (2)産前・産後サポート事業 ①子育て応援パートナー派遣事業165人(うち訪問50人・電話115人)【H30実績：146人(うち訪問71人・電話75人)】 ②プレママサロン 12回、延べ89人(実57人) (H30実績：12回、延べ66人(実35人)) (健康推進課) 若年の妊婦や育児ノイローゼ等の問題によって一般の子育てサービスを利用することが困難な方や保護者が病気や仕事等により一時的に子育てが困難になった方への支援を行った。(健康推進課) 養育支援(家事・訪問) 4件(延べ103回) 子育て短期支援(ショートステイ) 2件(延べ12日) 子育て短期支援(トワイライトステイ)2件(延べ2日) (子育て支援課)	A	健康推進課 子育て支援課
配慮を必要とする子どもたちの成長・発達の支援	配慮を必要とする低出生体重児や発達に支援が必要な子どもたちの成長・発達に応じた専門的な支援体制が確立できた。 (1)すくすく身体クリニック …… 低出生体重児や運動発達に心配のある方を対象に、小児科専門医による個別相談を実施 15回、83人 (H30実績 15回、82人) (2)発達相談…成長や発達に不安がある方を対象に、発達相談員による個別相談を実施 185回、282人 (H30実績 173回、265人)	A	健康推進課
こども虐待の未然防止対策の推進	警察、医療機関、福祉施設、学校、幼稚園、保育所、教育委員会、母子保健、障がい福祉、地域福祉、子育て支援各種団体などと、各会議を通じてネットワークをつくり、情報共有を図ることにより虐待の未然防止に努め、早期発見・早期対応に努めた。 代表者会議1回、実務者会議6回、予防ケース検討会議6回、個別ケース検討会議53回	A	子育て支援課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
安心して産み育てることができるまち	子育て支援マップ、子育てハンドブックの作成と配布により、安心して育児できるための情報提供を充実させた。また、地域の育児支援プログラムとの連携、地域子育て支援拠点との連携において、情報共有・連携体制が整備できた。 平成28年度に作成した「子育て支援MAP」は、地区別にまとめて作成している。身近な外出場所や相談場所が分かりやすいと、良い評価を得ている。毎年、改訂し作成し、配布しており、令和元年度も地域の実情に合わせ改訂し配布した。地域の乳児の育児支援プログラムにて、個別育児相談会、子育てコンシェルジュの紹介を行った。(健康推進課) 子ども・子育て会議の開催 4回 令和2年度から令和6年度までの子ども・子育て施策の基本的方向や目標を定めた「第2期向日市子ども・子育て支援事業計画」を策定するため、協議を行った。(子育て支援課)	A	健康推進課 子育て支援課
年間出生数 【H26:411人→H31:500人】	H29 523人 H30 523人 R1 522人 北部開発と大型マンションの建設に伴う子育て世帯の転入による影響もあり、H29年度以降、目標の500人を上回る出生数となっている。	済	健康推進課
子育てコンシェルジュによる妊婦の面接【H26:― → 100%(毎年)】	令和元年度面接実施率:100% 目標の100%を達成できた。	済	健康推進課
地域子育て支援拠点【H28:1箇所 → H29:3箇所】		済	子育て支援課
地域子育て支援拠点の延べ利用者数【H28:4,612人 → H31:10,000人】	ねこばす、さくらんぼ、マナハウスの3拠点の利用について、赤ちゃん訪問や子育て支援課窓口、すくすくガイド等での周知により、多くの方に利用いただけた。 各施設延べ利用者数状況 ねこばす さくらんぼ マナハウス 合 計 H28年度 4,612 ― ― 4,612 H29年度 4,847 1,703 8,481 15,031 H30年度 5,559 1,818 7,245 14,622 R元年度(3月末現在) 3,547 881 7,160 11,588	済	子育て支援課
子育てハンドブックの作成【H30:完了】		済	子育て支援課
祖父母手帳の作成【H30:完了】		済	子育て支援課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野1 少子化対策・子育て支援

施策2 子育てを支援する保育環境づくり

基本方向

○子育て支援のための施設の計画的な整備を図るとともに、時間延長等多様な保育サービスの充実に努めます。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
待機児童解消に向けての取組	平成31年度当初待機児童:24人 ①小規模保育園2園(定員:各12人)の新設 ②第2保育所からもずめ保育園への移行により、定員を30名増員(定員:120名→150名) ③あひるが丘こども園の建替えにより、定員を5名増員(定員:120名→125名) ④チェリーズハグ東向日園の定員を6名増員(定員:12名→18名) ⑤毎月の選考会により、令和2年3月末現在、53名の途中入所	A	子育て支援課
時間延長など保育サービスの充実	全園延長保育を行っている。 もずめ保育園は延長保育時間を午後8時まで実施している。	A	子育て支援課
留守家庭児童会施設の計画的な整備	第2・4留守家庭児童会の増築に係る設計及び工事や、全留守家庭児童会の劣化箇所の修繕を実施するなど、計画的な整備に取り組んだ。	A	生涯学習課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
働く世代を応援し、子どもたちが伸びやかに育つまち	待機児童の解消に向け、小規模保育園2園の開園、第2保育所からもずめ保育園への建替え、あひるが丘こども園の建替えに伴う、補助金交付を行った。(子育て支援課) 全留守家庭児童会で、入会要件を充たす児童を全て受け入れた。(生涯学習課)	A	子育て支援課 生涯学習課
待機児童 【H31:前年度より減少】	平成31年度当初待機児童:24人 ①小規模保育園2園(定員:各12人)の新設 ②第2保育所からもずめ保育園への移行により、定員を30名増員(定員:120名→150名) ③あひるが丘こども園の建替えにより、定員を5名増員(定員:120名→125名) ④チェリーズハグ東向日園の定員を6名増員(定員:12名→18名) ⑤毎月の選考会により、令和2年3月末現在、53名の途中入所 年度(4/1) 待機児童数 就学前児童数 保育所定員 入所児童数 H30 72 3,135 1,209 1,242 H31 24 2,729 1,274 1,310	済	子育て支援課
保育所定員 【H26:1,050人 →H31:1,260人】	平成31年度定員 1,274人(小規模園2園開園、第2保育所やあひるが丘こども園の建替え等により、定員を65名増員) 令和2年度の定員増に向けて、かおりのはなほいくえんの開園準備を行った。(合計定員100名増)	済	子育て支援課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり			
施策分野2 健康づくりの推進			
施策1 生活習慣病予防による健康生活への支援			
基本方向			
○市民が主体的に健(検)診を受け、生活習慣の改善等の健康づくりに取り組めるよう支援します。			
取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
特定健診等の受診率向上と生活習慣病の重症化予防	特定健診等受診率向上対策： ①向日市国民健康保険加入者で令和元年8月時点で特定健康診査未受診者のうち、過去受診歴等でセグメント化を実施し、7,519人に受診勧奨ハガキまたは受診勧奨案内を送付。 ②今年度に40歳、42歳、44歳、46歳、48歳になる人及び過去に受診履歴のない人661人に、電話や訪問による受診勧奨を実施した。	A	健康推進課
糖尿病など生活習慣病の重症化予防	糖尿病性腎症重症化予防事業 糖尿病性腎症による人工透析者の減少をはかるため、継続して実施した。 【対象者】 ①過去5年間(H26～H30)特定健診で1度でも糖尿病型の判定区分(HbA1c6.5%以上)になったことのある者の内、 未治療・治療中断者 139人 ②糖尿病型の判定区分(HbA1c6.5%以上)かつ慢性腎臓病重症度分類で軽度～中等度の腎機能低下に該当(eGFRが45～59ml/分/1.73㎡)者の内、未治療者および主治医が保健指導を許可した者 49人 【結果】 対象者 ①対象者全員に家庭訪問を実施し、保健指導を実施できた人は 84人(保健指導実施率60.4%) ②対象者全員に家庭訪問を実施し、保健指導を実施できた人は 34人(保健指導実施率69.4%)	A	健康推進課
がん検診体制の充実	平成29年度に京都府乳がん検診管外受診制度による個別医療機関での乳がん検診の受診体制を整備し、乳がん個別検診を開始した。 個別医療機関での乳がん検診受診者数は年々増加している。 受診者数 H29:43人 H30:119人 R1:154人	A	健康推進課
進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手			
目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
生涯を通じて健康で豊かな生活を送ることができるまち	① 健康ウォーク事業をH24年から継続して実施してきており、健康づくりのためのウォーキングの啓発となった。 令和元年度は、綾部市民との交流事業として、「向日市健康ウォーク」を実施。 市民参加者数:227人 ② 健診の受診や生活習慣改善に対する意識の向上を図るため、平成29年度に「健康ポイント事業」(国保事業のポピュレーションアプローチとして)を開始し、以降、事業を継続している。 令和元年度市民参加者数:95人	A	健康推進課
特定健診の受診率 (向日市国民健康保険実施分)【H26:43.9% → H31:51%】	平成30年度法定報告(令和元年11月公表): 47.9% 特定健診受診率は、未受診者対策として、訪問・電話による受診勧奨、受診勧奨通知、広報紙における啓発活動を行っており、受診率は平成29年度から0.6ポイント伸び、京都府平均34.0%を大きく上回っているが、目標値には達していない。	B	健康推進課
特定保健指導の実施率 (向日市国民健康保険実施分) 【H26:26.9% → H31:65%以上】	平成30年度法定報告(令和元年11月公表): 59.1% 特定保健指導対象者で、教室、相談事業に参加しない方には、積極的に個別訪問を実施した。京都府平均20.9%を大きく上回り、平成27年度以降、京都府内1位を維持している。	A	健康推進課
乳がん検診の受診率(H28新算定基準) 【H28:11.5% → H31:13.5%】	令和元年度の乳がん検診受診率 10.7 % (受診者数 1,009人) 受診者数 集団検診:855人 個別健診:154人 集団検診の受診者数は昨年度より7人増加、個別健診受診者は35人増加したが、全体の受診率としては昨年度に比べ0.2ポイントの減少となった。しかし、個別健診受診者数は年々増加している。	B	健康推進課
達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない			

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野3 高齢者が安心して暮らせる体制の充実

施策2 認知症施策の推進

基本方向

○認知症に対する市民の理解を深めるとともに、認知症高齢者を早期発見して支援につなげます。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
認知症高齢者を支える体制づくり	・認知症地域支援推進員による認知症サポーター養成講座を実施。認知症サポーター養成講座の受講者数 941人＜R01年度＞ ・中学生が主体となった認知症声掛け訓練の実施に加え認知症サイトの周知、RUN伴（認知症の人や家族、支援者、地域の人がりレーによりタスキをつなぐイベント）への協力など、認知症に対する地域の理解を深める取組を推進した。	A	高齢介護課
認知症初期集中支援チームによる早期発見・早期対応への取組の推進	・新規受付件数 10件 支援回数 109回 チーム員会議実施回数 17回(R元年度) ・認知症初期集中支援チームを紹介するパンフレットを作成し、医師会、住民等に周知を行い、対象となるケースの早期発見・早期対応に努めた。また、認知症を患うケースに対し介護保険等のサービスに繋げることで住み慣れた地域で長く生活できるよう、きめ細やかな支援を行えた。	A	高齢介護課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
認知症高齢者とその家族を地域で支えるまち	令和元年度は、学校、地域サポーター、市民、自治体職員などを対象に認知症サポーター養成講座を実施した。養成講座の開始以降、受講者の累計は延べ9,000人を超えた。（令和元年度末時点で9,016人）	A	高齢介護課
認知症チェックサイトへのアクセス件数【H27:9,700件 → H31:12,000件】	令和元年度3,246件（H30年度5,131件）で、前年度比1,885件の減少となった。 目標設定は達成できていないが、毎年おおむね5,000人の利用者があることから、認知症の可能性を判断する際の一定の役割は果たしていると考え る。今後も引き続き出前講座やチラシ、広報紙の活用により、周知に努めていきたい。	B	高齢介護課
徘徊SOSネットワーク協力事業所（商工会会員数に対する登録率）【H26:24% → H31:28%】	商工会に登録事業所の説明と協力依頼をした。令和元年度末の登録率は6.8%（598事業所の内、41事業所が登録済み。）。また、全体の協力関係機関は110件で登録者数は微増である。 協力事業所については引き続き、認知機能が低下された高齢者の早期保護のため、地域全体での捜索にご協力いただくことの意義を説明し、協力機 関登録シールの作成や広報など新たな登録の啓発を行っていく。	B	高齢介護課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ　人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野4　障がい者福祉の充実

施策1　安心して暮らし続けられる共生社会の実現

基本方向

○障がいの有無にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる施策の充実に努めます。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
相談支援体制の強化	・サービス等利用計画・障害児支援利用計画作成率100%を維持。 ・事業所が安定的に運営できるよう、相談員の報酬単価の見直しを国・府に対して要望。	A	障がい者支援課
地域での生活を支援する福祉サービスの充実	・法改正に伴い、平成30年度から自立生活援助（地域生活に向けた相談、助言）、就労定着支援（就労に伴う生活面について事業所・家族との連絡調整）、高齢障がい者に係る介護保険サービスの償還制度（高齢障がい者が介護保険サービスを利用する場合、介護保険サービスの利用者負担を障がい福祉制度により軽減）等のサービスを実施。	A	障がい者支援課
手話による意思疎通ができる環境の整備	・「古都のむこう、ふれあい深める手話言語条例」の啓発の一環として、若年層を中心に聴覚障がい者に対する理解を更に深めるため、様々な角度から手話や聴覚障がい者のくらしについて紹介する手話マンガ冊子について販売及び広報むこうによるPRを実施。 ・市役所本館及び東向日別館にそれぞれタブレット端末を設置し、ビデオ通話での遠隔による手話通訳が可能な環境を整備。 ・向日市手話施策推進懇談会を開催し、ろうあ者等関係者の意見聴取を実施。 ・庁内において手話リーダーを各所属に配置し、簡単な手話ができる職員を引き続き養成。	A	障がい者支援課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
障がいのある人もない人も、いきいきと共に暮らせるぬくもりのあるまち	・市役所本館及び東向日別館にそれぞれタブレット端末を設置し、ビデオ通話による遠隔での手話通訳の実現を実施。 ・障がい者差別解消法に係る職員研修を実施。 ・「古都のむこう、ふれあい深める手話言語条例」に基づき、向日市手話施策推進懇談会を開催し、ろうあ者等関係者の意見聴取に努めた。 ・「古都のむこう、ふれあい深める手話言語条例」の啓発の一環として、若年層を中心に聴覚障がい者に対する理解を更に深めるため、様々な角度から手話や聴覚障がい者のくらしについて紹介する手話マンガ冊子について販売及び広報むこうによるPRを実施。	A	障がい者支援課
手話通訳者の配置 【H27:2人 → H31:4人】	4人	済	障がい者支援課
計画相談支援 作成率 【H26:91.2％→ H31:100％】	100% ・全ての必要な方にプランを作成できるよう、相談支援事業所への指導を行う等相談支援を強化した結果、サービス等利用計画・障害児支援利用計画策定率100%を達成した。 ・今後も引き続き100%を維持できるように支援を継続していく必要がある。	済	障がい者支援課
就労移行支援事業の利用者数 【H26:7人 → H31:11人】	14人 ・障がい者の就労意欲が急速に高まっている中、相談支援等を通じて、就労移行支援事業の利用実人数が高水準を維持している。 ・今後も引き続き施策を推進し、障がい者の就労機会の提供につなげていく。	済	障がい者支援課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野5 地域福祉の充実

施策1 福祉のまちづくりの推進

基本方向

○市民一人一人がご近所や地域で助け合い、支え合えるまちづくりを進めます。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
地域全体で見守り、支え合う環境づくりの推進	住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせ共に支え合えるよう、次の取組みを中心に、地域ぐるみで見守り、支え合う環境づくりを推進した。 ○井戸端会議の開催 開催回数:8回 参加人数:202人 ○地域福祉懇談会の開催 開催回数:3回 参加人数:64人	A	地域福祉課
地域福祉活動の人材の発掘・連携	地域福祉懇談会や井戸端会議をはじめ、広く地域住民に参加してもらうことで、潜在的に地域活動に興味がある方を掘り起こすことに繋げた。向日市まつりにおけるフードドライブ活動を通じて、フードバンク京都との連携や市民の方への啓発を行い、理解を深めた。	A	地域福祉課
地域の居場所・集いの場づくりの推進	生活困窮世帯等の子どもたちの学習支援を行うことで、子どもたちの学習意欲の向上のみならず放課後の集いの場づくりに取り組んだ。また、民生児童委員による井戸端会議や「絵本のよみきかせ」への支援を通じ、地域の居場所づくりを推進した。	A	地域福祉課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
互いの顔が見え、地域で共に支え合えるやさしいまち	民生児童委員や市社協等と連携、支援しながら、地域の見守り活動を推進した。 ＜主な実績＞ ・民生児童委員が高齢者台帳の整備及び確認のため高齢者世帯等を訪問した。 ・高齢者世帯のゴミ出しや訪問活動などを行っておられる地域サポーターの養成講座を市社協が開催し、地域の見守り活動を推進した。(地域サポーター登録人数:42人)	A	地域福祉課
地域の見守りネットワーク事業協定事業者数【H26:1事業者 → H31:6事業者】	令和元年度末 10事業所 現在、見守りネットワーク事業協定は10事業所と締結しており、目標を上回る成果をあげている。	済	高齢介護課
地域福祉懇談会の開催【H28 ― → H31 8回】	令和元年度 3回(参加人数64人) 「地域防災」をテーマに、民生児童委員向けに開催した。各地区定例会において、段ボールベッド組み立て体験及び地域の課題等について意見交換を行った。 特定の自治会・区単位での開催ではなかったが、それぞれの担当地域を持つ民生児童委員と情報共有することで地域ごとに異なる状況や課題を知る機会となった。	B	地域福祉課
集いの場づくり(事業数)【H26 4事業 →H29 5事業】		済	地域福祉課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野6環境・資源循環の推進

施策1ごみ減量化の推進

基本方向

○ごみの減量化や資源再利用の取組を強化し、持続可能な循環型社会を目指します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
公共施設等における資源ごみの終日回収の実施	市役所本庁と鶏冠井コミュニティセンター、北部防災拠点、上植野コミュニティセンターの合計4か所で資源ごみの終日回収を行った。 市役所については住民認知度が向上したため、自転車や自家用車での持ち込みが増え、鶏冠井コミュニティセンター、北部防災拠点、上植野コミュニティセンタ-の回収量が増加した。 年間総回収量(市役所、鶏冠井コミュニティセンター、北部防災拠点、上植野コミュニティセンター) 【H30実績 21.9トン → R1実績 28トン】 廃食油年間総回収量(市役所) 【H30実績 999リットル → R1実績 995リットル】	A	環境政策課
小型家電の回収推進	宅配便によるパソコン等小型家電の回収を、小型家電リサイクル法認定業者のリネットジャパン㈱を通じて行った。 また、市役所環境政策課窓口に携帯電話とスマートフォン専用の回収箱を設置し、回収方法を拡充するとともに、東京五輪のメダルプロジェクトと協力しながら広報による啓発に務め、回収量が倍増した。 【H30実績 1,354kg → R1実績 2,886kg】	A	環境政策課
家庭ごみの発生抑制及び事業系ごみの排出抑制	家庭ごみの発生量抑制に関しては、「ごみの出し方・分け方カレンダー」の全戸配布や広報、ホームページによりごみ減量の方法や工夫を紹介するなど周知・啓発に努めている。 事業系ごみについては、本市の一般廃棄物収集運搬許可業者を通じて、店舗と住居が同一の小規模事業所等に対して、家庭ごみに混入せずに排出するよう周知・啓発に努めた。また、大規模事業所28か所に対しては、事業系一般廃棄物減量等計画書の提出を求め、排出抑制を促し、事業系ごみ全体の排出量は減少した。 家庭系ごみについては、平成30年度は台風21号による災害ごみが多量に排出されていたため、比較すると減少しているが、平成29年度と比較するとごみの総量は増加した。また、一日ひとり当たりごみ排出量の目標は達成できなかった。 【人口:57,527人(H30) → 57,548人(R1)】 【家庭系ごみ:11,140t(H30) →10,933(R1)】 【事業系ごみ:3,798(H30) → 3,710t(R1)】	B	環境政策課
分別収集等の推進	分別されていないごみは持ち帰らず、注意を促すシールを貼るなど、注意喚起を行うとともに、ルール違反の多い資源ごみステーション箇所に防犯カメラを設置した。 資源ごみの前日出しが多発していたため、啓発のチラシを各戸配布するなど、分別収集ルールの徹底に努めた。 また、向日市廃棄物減量等推進審議会の「ごみ減量を推進するための方策について」の答申を踏まえ、市指定袋の導入に向けたスケジュール案を作成するとともに、ごみ袋の規格やデザイン、市民への周知・啓発方法について検討を進めた。	A	環境政策課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
環境への負担が少なく、市民一人一人が優しくすむまち	市民一人一人の環境に対する思いやりの気持ちを育むため、ごみゼロ・向日市一斉クリーン作戦、資源ごみ・廃食油の終日回収、小型家電の回収などごみの適正処理やりサイクル推進の取組を行った。 ・ ごみゼロ・向日市一斉クリーン作戦【参加者:H30実績 約5,500人 → R1実績 約5,650人】 ・ リサイクル「ひまわり市」【参加者:H30実績(2回開催) 約1,450人 → R1実績(2回開催) 約1,450人】 ・ 放置された犬ふんをチョークで囲い、注意喚起するイエローチョーク作戦を周知し、犬のふん害防止活動を行った。	A	環境政策課
ごみ排出量 【H26:560g/日・人 → H31:510g/日・人】	令和元年度の一日ひとり当たりごみ排出量は521gであり、令和元年度目標の510gを達成できなかった。	B	環境政策課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり			
施策分野6 環境・資源循環の推進			
施策2 地球温暖化防止対策の推進			
基本方向			
○地球温暖化をはじめとする環境問題に取り組み、地球にやさしいまちを目指します。			
取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
温室効果ガスの排出抑制及び省エネルギーの推進	温室効果ガスの排出抑制及び省エネルギーを推進するため、グリーンカーテン講習会や地球温暖化対策などをテーマにした環境市民講座を実施し、市民へ地球環境の変化等をアピールし、環境問題への意識向上に努めた。 さらに、クールビズ・ウォームビズを励行し、公用車については電気自動車やハイブリッドカーなどエコカーを使用している。 イオンモール京都桂川や向日市内の一部公共施設をクールスポットとするクールシェア共同宣言を行い、市民に対してクールシェアの周知に努めた。 環境市民講座(全3回) ・グリーンカーテン講習会【一般参加者47名 参加事業所2団体】 ・「親子で作って学ぼう！自然エネルギー！」【参加者21名】 ・「食品ロスを減らそう！～家庭でできる“はじめての一步”～」【参加者23名】	A	環境政策課
再生可能エネルギーの利用推進	太陽光発電と蓄電池を同時に設置する家庭に対して、京都府と連携して補助金の交付を行う「向日市自立型再生可能エネルギー導入事業」を実施し、広報やホームページで普及啓発に努めた結果、当初目標を達成した。 【当初目標10件→実績10件】	A	環境政策課
進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手			
目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
市民一人一人が環境保全活動を実践し、地球の未来を大切にすまち	市民一人ひとりがエコドライブやクールシェアなど環境に優しいライフスタイルに転換するよう周知・啓発に努めた。 ・ 環境月間である6月に「ノーレジ・マイバッグ運動」を推進するため、街頭啓発を実施した。 ・ 向日市まつりにおいて、環境市民ネットワーク会議参加の5団体が主体的にそれぞれの環境分野について出展され、市民の皆様に環境保全について広める取り組みを継続的に実践している。 【出展団体】「土のめぐみ」「向陽小学校のビオトープを考える会」「コスモスグループ」「西向日の桜並木と景観を保存する会」「はり湖周辺の自然を守る会」 ・ 市内で環境問題に取り組む市民団体の交流及び意見交換の場である環境市民ネットワーク会議を開催することにより、環境に関する認識を参加者全員で深め合うことができた。 環境市民ネットワーク会議【開催回数：H30年度 1回 → R元年度 2回】 ・ 地球温暖化対策などをテーマとした環境市民講座を開催し、市民へ地球環境の変化等をアピールするとともに、広報むこうなどによって環境問題について意識の向上を図った。 環境市民講座【H30年度 3回 → R元年度 3回】	A	環境政策課
達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない			

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野7 生活の安心・安全の確保

施策1 交通ネットワークの整備

基本方向

○交通弱者の日常生活の交通手段を確保するため、市の地勢や地形にふさわしい身近な公共交通の導入を図ります。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
新たな地域公共交通手段としてコミュニティバスの導入	令和元年10月1日から、南北2ルート、1日7便のコミュニティバス「ぐるっとむこうバス」の運行を開始した。	済	公園交通課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
地域公共交通のネットワーク連携により、安全・便利に移動できるまち	令和元年10月1日からコミュニティバス「ぐるっとむこうバス」の運行を開始し、鉄道駅や公共施設などを結ぶ移動手段を確保することで、市内の交通利便性を向上させ、安全・便利に移動できるまちづくりに寄与した。	A	公園交通課
コミュニティバスの導入【平成30年を目途にできるだけ早い時期に運行】	令和元年10月1日からコミュニティバス「ぐるっとむこうバス」の運行を開始した。	済	公園交通課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしい田ちづくり

施策分野7 生活の安心・安全の確保

施策2 災害時対応の充実

基本方向

○避難支援体制の整備や避難所運営体制の充実、情報伝達体制の強化等、災害時の市民の安心・安全を守る取組を推進します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
災害時の要配慮者避難における関係機関との連携	要支援者名簿について、乙訓消防組合と名簿提供に関する覚書を締結した。(防災安全課) 要支援者名簿について、警察及び消防への名簿提供に関する具体的な手続きを、乙訓二市一町で協議したが、避難を支援するうえでより実効性のある要支援者名簿を作成中であるため、避難誘導や安否確認の具体的な方法について、民生委員や自主防災組織など避難支援等関係者との協議に至らなかった。 福祉避難所の開設について、乙訓ひまわり園、乙訓若竹苑、ポニーの学校と協定等を締結している。また令和元年度は、向日が丘支援学校に対し協定の締結に向け働きかけを行っているとところである。(障がい者支援課) 現在、市内の介護老人福祉施設2か所(特別養護老人ホーム向陽苑、特別養護老人ホームサンフラワーガーデン)と福祉避難所の協定を締結している。また、R元年度は新たに災害時の介護用品や衛生用品等の福祉用具等の物資の供給を受けることに関する「災害時における福祉用具等物資の供給等の協力に関する協定」を締結した。(高齢介護課)	A	防災安全課 障がい者支援課 高齢介護課
大規模な災害に対応した災害備蓄物資の配置と通信設備の確保	災害備蓄物資については、民間企業から必要に応じて調達する「流通在庫備蓄」や本市及び京都府の「公的備蓄」により確保するとともに、防災マップや広報誌、ホームページなどで市民の皆様へ「家庭内備蓄」の重要性について周知・啓発した。 本市の備蓄は、北部、中部(市役所)及び南部の拠点施設3か所並びに主要避難所である市民体育館及び各小中学校10か所の合計13か所に分散配備を行った。 更に、京都府に対して乙訓地域への災害備蓄物資の分散配備を要請し、向日町競輪場内に3万人分の備蓄を実現した。 通信設備について、全国瞬時警報システム(J-ALERT)、エリアメール、防災・防犯メール、防災用デジタル無線を継続して配備するとともに、FMおとくにとの協定を継続することによって複数の伝達手段を確保した。	A	防災安全課
災害用仮設給水栓の確保		済	上水道課
被災者支援システム運用体制の強化及び被災者支援等応急対策事業の拡充	り災証明の発行など被災者の生活再建を支援する業務が円滑に行えるよう、京都府の被災者支援システムを引き続き導入するとともに、府主催の研修会に参加した。 研修会においては生活再建支援の一連の流れについて知識を深めるとともに、被災者支援システムを用いた、り災証明発行の演習を行った。	A	防災安全課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
あらゆる災害に対応した防災体制を整備し、誰もが安心して暮らすことのできるまち	市内縦横に幹線道路が整備されており、大規模な地震や土砂災害などで孤立する地域はないが、あらゆる災害に対応できる体制を確立するため、関係機関と連携して危険箇所のパトロール、防災会議、防災訓練を実施した。 【防災パトロール】 梅雨や台風シーズン前の5月に、土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域を自治会や京都府、警察、消防など防災関係機関と点検し、災害発生時の連携について確認し合った。 【防災会議】 洪水や地震などの災害に対する予防、応急対策及び復旧、地域防災計画の修正について、自治会や京都府、警察、消防、自衛隊、ライフライン事業者などの防災関係機関と書面会議を行った。 【防災訓練の実施】 防災月間の9月に、震度6強の内陸直下型地震により、家屋の倒壊、火災の発生をはじめ、道路、地下道、橋や交通機関、通信、ライフラインなどの施設に大きな被害が発生したと想定して自治会や自主防災組織、京都府、警察、消防、自衛隊、ライフライン事業者、社会福祉協議会などの防災関係機関と連携して訓練を実施した。向陽小学校を会場とし、グラウンドや体育館などにおいて、避難、救出救護、ドローンによる情報収集訓練、災害救助犬による捜索活動訓練、初期消火体験、煙体験、起震車による地震体験、避難所運営、救命救急講習、簡易トイレ組立など、様々な場面を想定した訓練を実施した。この他に、スタンプラリーや自衛隊車両の展示・乗車体験、ミニ消防車乗車体験、子供レスキュー体験コーナーを設け、小さなお子様連れのご家族や子供同士でも楽しみながら参加できるように工夫するとともに、広報誌や回覧などで周知に努めたことから、約1,000人の参加があった。また、寺戸町事務所では、社会福祉協議会がサテライト会場として位置づけ、災害ボランティアセンター設置・運営訓練を同時に実施した。(防災安全課) 障がいのある人のための防災手帳の配布、啓発を推進し、障がい関係団体に対し、防災手帳の活用の仕方及び災害時の対応について考える機会として出前講座を実施した。(障がい者支援課) R元「災害時要配慮者支援ボランティア育成講座」に参加し、災害時のボランティアに対する知識を深め、現状と課題を把握することができた。また、向陽苑で実施された、乙訓地域福祉避難所開設・運営訓練に参加し、福祉避難所の開設並び要援護者の受入及び運営を学んだ。また、要配慮者名簿について、福祉的な支援の視点で対象者整理等の見直しに着手した。(高齢介護課)	A	防災安全課 障がい者支援課 高齢介護課
仮設給水栓の増設 【H26:ー → H29:7基】		済	上水道課
応急給水用袋の確保 【H26:7,200袋 → H29:18,000袋】		済	上水道課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり			
施策分野7 生活の安心・安全の確保			
施策3 防災力・防犯力の強化 基本方向 ○想定をこえる大規模災害に対応するため、災害に対する自助意識の醸成と高揚を図るとともに市内外の様々な民間事業者や関係団体との広域的な協力・連携体制を強化します。 ○局地化、激甚化する降雨にも対応するため、雨水幹線整備を進めるとともに、既存小規模排水路の改善等により、更なる浸水安全度の向上に努めます。 ○防犯カメラを設置し、犯罪の未然防止等を図ります。			
取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
地域自主防災組織の育成支援	自主防災組織を対象に、消火器や防火バケツなどの購入費用について補助金を交付し、地域での防災資機材の充実を図るとともに、出前講座の実施や地域での防災訓練を支援することにより、地域コミュニティを高め、共助の確立を促した。 【補助金交付数：18団体（H30）→22団体（R1）】 【出前講座と防災訓練の実施回数：17回（H30）→ 22回（R1）】	A	防災安全課
必要に応じた防災マップの見直し	国や京都府が公表した新たな洪水浸水想定区域など最新の防災情報を掲載した防災マップを全戸に配布した。	A	防災安全課
あらゆる事態に対応するための防災協定締結	災害時の対応をより一層充実し、市民の皆様の安心・安全を確保するため、以下のとおり防災協定を締結した。 ①大阪ガス㈱ 「災害時における復旧活動に要する用地の使用に関する協定書」 大規模な災害が発生した場合に、ガス供給設備の復旧に要する用地を大阪ガスに提供し迅速な復旧活動を行う。 「災害時における情報提供に関する協定書」 地震など大規模な災害が発生した場合に、ガス供給を停止したマイコンメータの復帰手順及びガス管復旧状況を市のホームページに掲出し、市民の皆様に情報提供を行う。 ②㈱Fujitaka JUAVACドローンエキスパートアカデミー京都校 「災害時等における無人航空機の運用に関する協定書」 災害時における無人航空機（ドローン）による災害情報の収集を行う。 ③西日本電信電話㈱ 「特設公衆電話の設置・利用に関する協定書」 災害の発生時において、特設公衆電話の設置により避難者の通信の確保を行う。	A	防災安全課
浸水対策下水道和井川1号幹線整備の推進	市南部の浸水対策として実施している和井川1号幹線の整備を実施するための工事を発注し、2か年工事の1年目の令和元年度は、シールドトンネル工事に向けた準備としてトンネルの材料となるセグメント製作工を進めることができた。	A	下水道課
浸水対策下水道小規模排水路の改善	上植野町十ヶ坪、森本町前田及び寺戸町東野辺地域の小規模排水路改善箇所について降雨時の現地調査を実施し水路等の現状を把握することができた。	A	下水道課
雨水タンクの助成制度創設と推進	広報むこう、水道だより及び市ホームページにより情報発信を行うとともに、向日市まつりにおいて、雨水タンクの設置方法を実演するなど助成制度の啓発活動を実施したが、令和元年度末までの設置数は78基となり、設置目標100基を下回った。	B	下水道課
防犯カメラの設置促進	犯罪の未然防止を図るため、新たに通学路や公園、分別収集ステーションなどに57台を設置した。 また、自治会や町内会を対象に防犯カメラの設置費用について補助金を交付し、地域の防犯力を高めることができた。 【補助金交付数：3団体3台（H30）→3団体9台（R1）】	A	防災安全課
進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手			
目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
自助・共助・公助の連携により災害や犯罪に対する備えが強化され、市民が安心できるまち	雨水の流出抑制など防災に対する市民意識の向上を図るため、石田川1号幹線施設見学会（夏、冬1回）の開催や、向日市まつりで雨水貯留タンクの設置に係る啓発活動を実施した。また災害への備えとして、住民の皆様が自助・共助の取組みの中で利用できる土のうステーションを2基設置した。（下水道課） 災害に強く、犯罪のないまちの実現に向け、自治会、町内会、自主防災組織等、出前講座や出前授業、啓発活動を通じて、自助共助の重要性の浸透に努めた。また、関係機関及び民間企業等と合同で訓練やパトロールを実施し、連携強化に努めた。（防災安全課）	A	下水道課 防災安全課
防災マップの全戸配布		済	防災安全課
駅周辺をはじめ、通学路や公園などに防犯カメラを設置	駅周辺設置済み（H28） その他、通学路や公園、分別収集ステーション56か所に57台を設置した。 【設置台数 H28：6か所9台、H29:6か所11台、H30:11か所12台、R1:56か所57台⇒合計79か所89台】	A	防災安全課
和井川1号幹線ルート の決定及び事業計画の策定（H28）		済	下水道課
雨水タンクの設置 【H28： ― → H31：100基】	令和元年度末までの目標100基に向けて事業を実施したが、目標値に対して78基の設置にとどまった。	B	下水道課
達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない			

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野8 消防・救急体制の強化

施策1 地域消防・救急力の強化

基本方向

○市民一人一人の救急救命に関する知識を深めるとともに、技術の向上に努めることで、複雑・多様化する災害への対応能力の向上を図ります。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
消防団員の確保と消防団活性化の推進	向日市消防団協力事業所表示制度の規定に基づき、本年度も3事業所から継続申請(2年ごと)があり、協力事業所と認定し表示証を再交付した。 また、大学や専門学校に通学しながら消防団活動を行う学生等に対して社会貢献を認証し、就職活動を支援する制度(学生消防団活動認証制度)の推進を行った。 【消防団協力事業所数:3件(H27)、3件(H28)、3件(H29)、3件(H30)、3件(R1)】	A	向日消防
市民の救急対応の向上推進	個人や事業所、自主防災組織などを対象に心肺蘇生法の手順や傷病者の搬送方法、止血法など応急手当を習得するための救命講習会を開催し、応急手当の普及に努めた。 【救命講習開催回数:24回(H27)、24回(H28)、19回(H29)、22回(H30)、23回(R1)】	A	向日消防

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
災害時に市民の安心・安全が確保されたまち	応急手当を普及するために救命講習会について広報むこうを通じて周知に努めた。家庭や地域、職場などにおいても応急手当の重要性が深く浸透するよう引き続き継続する。今後、救命講習会について積極的な周知・啓発を行うとともに、応急手当の知識が深まり、技能が向上するよう普及促進の取組を工夫しながら継続して実施する。 消防団の能力の維持向上については、消防団員の消防機器取り扱い及び消防技術向上と士気高揚を図るために訓練を重ねた。 【消防団訓練参加延べ人数:1,860人(H27)、1,957人(H28)、1,889人(H29)、1,999人(H30)、1990人(R1)】	A	向日消防
消防団員数150人体制の維持	条例に定めた150人体制を維持した。	A	向日消防
救命講習の受講者数 【H29:182人 → H31:220人】	より多くの市民の方に受講いただくため、乙訓消防組合のホームページや広報むこうに毎月掲載し、前年と比較すると受講者数が増加した。 【講習受講者数:182人(H29)、215人(H30)、241人(R1)】	済	向日消防

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ　人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野8　消防・救急体制の強化

施策2　火災予防意識の徹底

基本方向

○火災予防意識の徹底を図るとともに、自主防災組織を育成することで、安全な地域づくりを推進します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
住宅用火災警報器の設置促進及び既設警報器適正管理の推進	住宅火災の早期発見と被害軽減のために、乙訓消防組合のホームページにおいて住宅用火災警報器の設置を促すとともに、向日市まつりや各戸訪問を通じて器具の必要性を周知した。 【訪問戸数：1,800戸（毎年実施）】	A	向日消防
自主防災組織や自治会・町内会での消火器設置促進	消防署員が、自主防災組織や自治会・町内会を対象に現地での消火訓練の実施を通じて、消火器の必要性を促し、消火器の設置を推進した。 【訓練回数：28回（H27）、38回（H28）、26回（H29）、28回（H30）、27回（R1）】	A	向日消防
火災予防に効果的な過熱防止装置付コンロの普及促進	過熱防止装置付コンロの普及について、これまで取り組んできた飲食店への普及促進に加えて、一般家庭についても普及促進を行うため、乙訓消防組合の広報紙においてコンロの特集記事を掲載し、普及促進に努めた。	A	向日消防

進捗状況「済」…完了「S」…計画以上に進んでいる「A」…計画どおり進んでいる「B」…計画より遅れている「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
市民と共につくる火災のないまち	消防団と連携して開催した消防出初式において、消防団員が分列行進や一斉放水の実演訓練を実施した。危険物安全週間(6月)において市内事業者と防火訓練を実施した。また、秋の火災予防運動(11月)において、職場体験実習生(中学生)と街頭啓発を実施した。	A	向日消防
建物火災0件	火災予防運動や危険物安全週間等での啓発に加え、気象状況により火災が起こりやすい状況の際に消防車による街宣活動を行うとともに、各戸訪問(毎年1,800件)を実施し、火災予防意識の向上に努めた。 【建物火災発生件数：3件(H27)、3件(H28)、8件(H29)、7件(H30)、5件(R1)】	C	向日消防

達成状況「済」…達成「S」…計画以上に成果が出ている「A」…計画どおり成果が出ている「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり			
施策分野9 ライフラインの強化			
施策1 上下水道事業の安定経営			
基本方向			
○水道施設の計画的な整備や財源の確保、更なる経営改善に努め、運営基盤を強化します。			
○下水道施設の長寿命化を図るため、予防保全型の維持管理を行います。			
取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
下水道施設の長寿命化の推進	管口カメラ調査308箇所(うち職員により100箇所実施)、管補修20箇所を実施した。	A	下水道課
進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手			
目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
マンホール等管路施設の内部点検及び修繕 【100%(H29)】		済	下水道課
(2巡目)下水道管路施設の長寿命化を図るため、点検、調査及び補修を実施 【H30: 0% → H31:100% (全施設に対する実施率:10%)】	令和元年度末までの600箇所調査実施の目標に対して、626箇所(令和元年度は308箇所)を実施した。	済	下水道課
達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない			

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野9 ライフラインの強化

施策2 水道水の安定供給

基本方向

○水道施設を強化し、災害時や緊急時でも安全で良質な水を安定供給します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
物集女西浄水場及び配水池の耐震化	高架水槽及び主要な場内連絡管の耐震化工事を実施し、完了した。	済	浄水場
水道管路の耐震化	水道管路の耐震化を約1.6km実施した。	A	上水道課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
配水池の耐震化 H28:完了		済	浄水場
物集女西浄水場の耐震化 H31:完了	高架水槽耐震化工事について実施し、完了した。	済	浄水場
重要な管路(基幹管路)の耐震適合率 【H26:18% → H31:32%】	重要な管路(基幹管路)の耐震化を350m実施した。 基幹管路の耐震適合率は昨年度より1.6%上昇し、27%となった。	B	上水道課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野10 学校教育の充実

施策1 学力の向上と個性を伸ばす教育の推進

基本方向

○「質の高い学力」を育成するため、指導方法・指導体制を工夫・改善し、個に応じた指導の充実に努めるとともに、個性や能力を最大限に伸ばす教育を推進します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
校種間連携の視点を踏まえた指導方法の工夫・改善	小中連携では、校種間の接続をスムーズにするため、小学6年生が中学校で授業や部活動を体験し、全中学校ブロックにおいては、小中学校教員が一堂に会する合同研修会を実施し、各校の学力実態や学力向上の取組について交流した。 また、保幼小の円滑な接続に向けて、小学校への入学前後の連絡会だけでなく、園児が小学校の取組に参加したり、小学生が園に出向いて活動したりするなど年間を通じて連携することにより、異校種間での教育や保育の特徴について理解を深めることができた。	A	学校教育課
ICTを効果的に活用した授業の実施	各教科において、学習のねらいに応じた効果的な資料の提示や、一人一人の児童生徒の考えの共有のために大型モニタ等を活用するなど、ICT機器の活用実践を充実させた。	A	学校教育課
児童生徒一人一人を大切にした特別支援教育の充実	教育支援委員会では、学校や保育所(園)、幼稚園、療育関係機関と連携し、幼児児童生徒一人一人に応じた就学先について審議し、適切な進学先を総合的に判断し、保護者に伝えた。また、各学校においては、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援を講じるとともに、特別支援教育支援員による児童生徒への支援の充実を図ることができた。	A	学校教育課
グローバル化等、社会の変化に対応した教育の充実	小学校では、令和2年度からの新しい学習指導要領の全面実施に向け、外国語科や外国語活動の指導と評価について実践的に研究を進めることにより、令和2年度の教育課程の計画を立てることができた。また、小中学校において、「ふるさと学習」を進め、向日市の歴史や文化を学び、学習した内容を発表や展示等で発信することができた。	A	学校教育課
読書活動を通じた創造力・表現力等の育成	「子ども読書の日」を意識した教員による本の紹介や、ビブリオバトルを実施して表現力を高める授業の工夫など、読書活動を取り入れた取組を実施することができた。	A	学校教育課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
生涯にわたって意欲的に学び、自己実現を目指し、これからの時代をたくましく生きる児童生徒が育つまち	各学校では、確かな学力・豊かな人間性・健康や体力などの「生きる力」の育成を基本とし、児童生徒の実態を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の習得をさせるとともに、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育み、主体的に学習に取り組む意欲・態度を養う教育を推進した。 各学校毎に、研究課題を設定し、話し合い活動(自らの考えを交流し、確かめ、発表する等)を積極的に取り入れるなど、児童生徒が意欲的に学び、学習する力の育成に努めた。	A	学校教育課
学校の授業時間以外の勉強時間が平日1日当たり30分に満たない子どもの割合【R1：小学4年生(23.1%)、中学2年生(23.7%)】 【H30：小学4年生(19.7%)、中学2年生(21.7%)】 【H27：小学4年生(18.3%)、中学2年生(27.7%)→10%以下】	学校の授業時間以外の勉強時間が平日1日当たり30分に満たない子どもの割合 【R1：小学4年生(23.1%)、中学2年生(23.7%)】 【H30：小学4年生(19.7%)、中学2年生(21.7%)】 【H29：小学4年生(20.5%)、中学2年生(26.5%)】 小学校では、家庭学習の手引きの活用や、中学校では、自主的な学習につながるよう、授業改善や宿題の出し方などの工夫に努めた。	B	学校教育課
国語や算数・数学、英語の勉強が「好き」な子どもの割合【H27：小学4年生(国 69.0%、算 81.8%)、中学2年生(国 59.9%、数 62.6%、英 60.1%) → 増加】	国語や算数・数学、英語の勉強が「好き」な子どもの割合 【R1：小学4年生(国 63.6%、算 74.5%)、中学2年生(国 56.8%、数 52.9%、英 59.4%)】 【H30：小学4年生(国 69.8%、算 76.9%)、中学2年生(国 55.6%、数 54.6%、英 63.3%)】 【H29：小学4年生(国 66.2%、算 76.2%)、中学2年生(国 61.5%、数 48.8%、英 68.4%)】 目標には達しなかったが、各学年、各教科ともに非認知能力の育成を図る授業改善を進めた。	B	学校教育課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野10 学校教育の充実

施策2 豊かな人間性をはぐくむ心の教育の推進

基本方向

○公共の精神、伝統や文化の尊重等を踏まえ、伝統や文化に関する教育や道德教育、体験活動を充実させるとともに、人間として、また社会の一員として主体的に生きるための基本となる資質や能力である豊かな人間性や社会性の育成に努めます。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
道德教育の推進	小中学校においては「考え議論する道德」に向け、ねらいを明確にした授業改善を進め、適切に評価することができた。 教育委員会主催の「特別の教科 道德」実践交流会を実施し、児童生徒の心に響き、道德的価値の自覚を促す指導方法について共通理解を図った。	A	学校教育課
あらゆる人権問題の解決に向けて、自ら考え行動できる児童生徒の育成	人権教育を推進するために、「部落差別の解消の推進に関する法律」等差別のない社会の実現をめざした法律を踏まえた教職員研修を行うとともに、各学校での人権学習のさらなる充実を図るとともに、公開授業等により、保護者、地域社会への啓発を進めた。	A	学校教育課
芸術・伝統文化に触れる機会の充実	発達年齢に応じて、地域の特色を生かした体験活動を実施し、また、地域人材や専門家を講師として迎え授業を実施するなど学ぶ機会を充実させた。 また、小中学校において「ふるさと学習」に取り組み、中学校においては「向日市ふるさと検定」の受検を通して、児童生徒は一層ふるさと向日市への関心を高めた。その成果を発表する機会を設定し、広く周知することができた。	A	学校教育課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
一人一人を大切にし、人を思いやり、尊重する心など人間性豊かな児童生徒が育つまち	学校では、教育活動全体に、人権教育や道德教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にした教育や豊かな人間性を育む心の教育を推進するとともに、自己有用感を高めて社会性を身に付けさせる異年齢交流活動、福祉体験活動、職場体験活動など、創意工夫した教育活動を進めた。	A	学校教育課
人が困っているときは進んで助けようとする子どもの割合 【H27: 小学4年生(86.8%)、中学2年生(82.4%) → 増加】	人が困っているときは進んで助けようとする子どもの割合 【R1 : 小学4年生(88.0%)、中学2年生(79.2%)】 【H30: 小学4年生(90.1%)、中学2年生(79.4%)】 【H29: 小学4年生(90.9%)、中学2年生(80.6%)】 小学校は、昨年度に引き続き達成したが、中学校は、目標を達成していない。 小中学校では、引き続き、異年齢交流活動や福祉体験活動、職場体験活動を実施するなど教育活動全体を通じて、思いやりや規範意識の醸成に努めた。また、中学校では、道德の教科化に伴って指導と評価を見直した。	B	学校教育課
将来の夢や目標をもっている子どもの割合の増加 【H27: 小学4年生(89.8%)、中学2年生(76.5%) → 増加】	将来の夢や目標をもっている子どもの割合の増加 【R1 : 小学4年生(90.8%)、中学2年生(65.8%)】 【H30: 小学4年生(91.9%)、中学2年生(72.9%)】 【H29: 小学4年生(89.6%)、中学2年生(73.1%)】 小学校では、目標を達成したが、中学校は、目標を達成していない。 小中学校では、引き続き、発達段階に応じて、特別活動や特別の教科道德等で児童生徒が自らの目標を決める活動を行い、さらにキャリア教育の視点を明確にした取組や体験活動を実施した。	B	学校教育課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ

人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野10

学校教育の充実

施策3

健やかな身体の育成と体力の向上

基本方向

○生涯を通じて体育・スポーツ活動に親しむ能力と体力の向上を図ります。

○知育・徳育・体育の基礎となる食育の推進とともに、現代的な健康課題への理解を深める等、健やかな身体の育成を図ります。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
児童生徒の体力・運動能力の向上	児童生徒の実態に応じて、基礎体力の向上を意図した基礎トレーニングを取り入れるなど創意工夫した体育授業の実践を行った。また、中学校では、生徒の実態に応じ、部活動における適切な運動量の確保や指導技術の向上に努めた。	A	学校教育課
食に関する授業の充実等による食育の推進	小学校において、給食指導とともに授業等の中で食育の取組を進めた。 中学校では、給食を活用した食育の取組を進める準備を行った。	A	学校教育課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
生涯にわたって体育・スポーツ活動に親しみ、健康で生きがいのある生活を営む児童生徒が育つまち	各学校では、健康や体力づくりについての基礎的な知識を学ぶ学習や体力向上に向けた取組を行った。 特に、「薬物乱用防止教室」、「生命のがん教育」等、健康で生きがいのある生活を営むための身近に迫っている状況を踏まえた学習を行うとともに、保健だより等で家庭へ啓発し、生活習慣の見直しの取組を連携するなど、児童生徒の健やかな身体の育成を図る取組を進めた。	A	学校教育課
新体力テストにおける全項目において、全国の平均を上回る	(全国平均を下回る傾向の項目) R1 【握力(単位:kg)】 【シャトルラン(単位:回)】 小学6年 中学3年 小学6年 中学3年 男子 女子 男子 女子 男子 女子 男子 女子 全国 19.04 19.37 34.81 25.71 65.49 51.19 96.80 62.66 市 18.34 18.21 31.87 23.79 63.06 46.39 92.60 70.80 中学3年女子のシャトルランで目標を達成した。 各学校は、新体力テストの結果を踏まえ、京都府や全国平均を下回る項目を強化する運動を授業に取り入れるなど工夫に努めた。	C	学校教育課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野10 学校教育の充実

施策4 家庭・地域社会との連携による特色ある学校づくり

基本方向

○保護者や地域社会との連携を促進し、家庭・地域社会と一体となった教育活動の充実を図り、特色ある学校づくりを推進します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
家庭・地域社会への積極的な情報発信と地域人材等の活用	小中学校では、教科等の学習内容に関わる地域の情報を積極的に取り入れるとともに、地域の方を講師として迎え、話を聞いたり体験的な活動を行ったりするなど、地域人材を活用した取組を進めた。	A	学校教育課
ふるさと向日市への愛着と誇りをはぐくむ「ふるさと学習」の充実	小中学校では、市内の施設の利用や地域人材の活用も含め「ふるさと学習」を進めた。また、教職員研修として、向日市へ転任した教職員、初任者及び新規採用者の教職員に対して、向日市ふるさとセミナーを実施した。	A	学校教育課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
地域社会全体で子どもを包み込み、はぐくもうとする環境の中で、伝統や文化に触れ、ふるさと向日市に愛着と誇りを持つ児童生徒が育つまち	学校は、積極的に児童生徒が地域に出て体験をしたり、地域の方を講師として学習したりする取組を実施した。 さらに、児童生徒への支援として、地域の方々に補充学習の取組に協力していただくなど、学校と地域社会で子どもを育もうとする環境づくりを進めた。 また、「ふるさと学習」で学んだことを文化資料館に展示したり、地域の方を招いて学習発表会を開催することで、児童生徒が向日市について学んでいる状況を市民に伝えた。	A	学校教育課
今住んでいる地域の自然や歴史について関心がある子どもの割合 【H27: 小学4年生(71.4%)、中学2年生(33.6%) → 増加】	今住んでいる地域の自然や歴史について関心がある子どもの割合 【R1 : 小学4年生(66.4%)、中学2年生(29.8%)】 【H30: 小学4年生(72.4%)、中学2年生(29.0%)】 【H29: 小学4年生(69.6%)、中学2年生(33.2%)】 学校では、「ふるさと学習」を行い、地域の自然や歴史について学ぶ機会を設け、関心をもたせるよう工夫に努めた。	B	学校教育課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり			
施策分野10 学校教育の充実			
施策5 教職員の資質能力の向上			
基本方向			
○教職員一人一人が、研修等により自己の資質能力の向上を図るとともに、培った実践力を教育活動に積極的に活かし、組織としての学校の教育力を高め、計画的・継続的な教育実践に取り組みます。			
取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
多様な教職員研修の充実	向日市教職員研修会では、人権感覚や指導力向上のための講座など喫緊の教育課題に応じた講座を行った。 各学校では、児童生徒の実態や教職員の状況に応じた校内研修、先進校視察研修、若手育成研修を実施した。	A	学校教育課
進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手			
目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
強い使命感と高い専門性を持つ教員の育成を図り、児童生徒が、明るくいきいきと学ぶ魅力ある学校づくり	向日市教職員研修会では、教員一人一人が課題意識を持ってテーマを選択し、専門性を高めた。 また、各小中学校では、自校の学力向上等に係る課題克服のため、京都府研究指定校及び本市研究指定校として、実践研究を進めるとともに、専門家を講師として招き、校内研修を行うなど、各学校の児童生徒の実態や教員の状況に応じた研究等により、組織的に学校の教育力を高めた。	A	学校教育課
達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない			

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野10 学校教育の充実

施策6 安心・安全な教育環境の充実

基本方向

○児童生徒が安心して通え、楽しく過ごすことができる居場所としての学校づくりに取り組みます。
○児童生徒の心身ともに健全な発達を促すとともに、安心・安全な教育環境の充実を図ります。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
いじめ・不登校の未然防止・早期解消を図る指導の充実	いじめアンケート及び一人一人の面談を通じた指導支援を継続させるとともに、いじめ・不登校の未然防止・早期解消を図る指導を実施した。 適応指導教室や心の相談サポーター、巡回相談などにより、児童生徒への効果的な支援に努めた。	A	学校教育課
自然災害や事故等、あらゆる危機に対応する力をはぐくむ安全教育の充実	学校では、計画的に各種(火災、地震、風水害等)避難訓練を実施するとともに、交通事故の未然防止に向け、発達段階に応じた交通安全教室(歩行、自転車の乗り方)の取組を進めた。	A	学校教育課
中学校給食の実施		済	学校教育課
老朽化等に対応するための学校施設長寿命化の検討	向日市公共施設総合管理計画の内容等を踏まえ、学校施設として、どのような機能・性能が必要となるかを検討し、学校施設の長寿命化計画の策定に向け現地調査を行い、向日市小中学校等個別計画の策定に向け取り組んだ。	B	教育総務課
トイレ改修の計画的な推進	小学校2校と中学校2校で、トイレ改修を実施した。	B	教育総務課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
安心・安全で快適な教育環境のもと、心身ともに健全な児童生徒が育つまち	安心・安全で快適な教育環境への取組を図るため、小中学校の学校施設のガラスや床、遊具等の修繕を実施した。 大阪府北部地震や台風第21号により、次年度に繰越した緊急度が低い、一部破損被害を受けた小中学校施設の修繕及び工事を実施した。(教育総務課) 学校では、児童生徒一人一人の状況について日常的に把握するとともに、いじめ・不登校の未然防止・早期解決を図る指導、また、避難訓練や交通安全教室など安全教育の取組を充実させることにより、心身ともに健全な児童生徒の育成に努めた。(学校教育課)	A	教育総務課 学校教育課
重大ないじめの発生件数 【H26:重大ないじめの発生件数 0件 → 0件】	R1 重大ないじめ発生件数 0件 学校では、全児童生徒の日々の状況把握ときめ細やかな指導を行うとともに、いじめアンケートと個別面談を実施した。	済	学校教育課
不登校の児童生徒の割合 【H26:小学校(0.70%)、中学校(3.25%) → 減少】	不登校児童生徒の割合 【R元 小学校(1.50%)、中学校(4.11%)】 【H30 小学校(1.38%)、中学校(4.33%)】 【H29 小学校(0.91%)、中学校(3.70%)】 教育委員会では、適応指導教室での指導を週3日から週5日に拡大するとともに、学校で個別に児童生徒を支援する「心の相談サポーター」の配置など、不登校の児童生徒に対応するための指導体制の充実を図った。また、各学校では、不登校児童生徒一人一人の状況を把握するとともに、フリースクール等の関係機関との連携など組織的に児童生徒を支援した。また、長期欠席児童生徒への教育の機会を保障するとともに、学級経営や授業改善の取組を通して、不登校の未然防止や新たな不登校を出さないように努めた。	B	学校教育課
中学校給食の実施 【H26:ー → H31:平成31年までのできるだけ早い時期に実施】		済	学校教育課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり			
施策分野11 生涯学習の推進			
施策1 生涯学習環境の充実			
基本方向 ○市民が生涯にわたり、多様な学習活動を行うことができるよう、自主的、自発的な学習活動を支援するとともに、学習の成果を活かす場や学習機会の充実に努めます。			
取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
ふるさと向日市の歴史を活かした講座など多様な学習機会の提供	文化資料館において、長岡京期の服飾を学びながら古代衣裳の着用体験を行うイベントや、向日市史概要版『向日市の歴史』を職員の解説つきで読み進める連続講座、中世の乙訓地域の古文書の内容や形式を職員が解説する連続講座、専門家による歴史講座を開催するなど、ふるさと向日市の特色ある歴史を様々な角度から学習できる機会を提供した。	A	生涯学習課
社会教育施設の特色を活かした学習機会の充実	図書館では4つのボランティア活動を支援し、学習の成果を活かす場や機会の提供を行った。年度末には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動が縮小されたが、この状況が落ち着きイベントを行うことができるようになればボランティア活動は再開できるため、概ね計画どおり成果が出ている。 ・アベリアクラブ…2,159冊の本の修理が行われた。また、「本の修理ボランティア講座」が行われ、8人の受講者が新たにボランティア登録をされた。 ・きつず・らいぶらりー…打ち合わせ・リハーサル等を行いながら、おはなしひろばを7回開催した。 ・大人の朗読会ボランティア…大人の朗読会を3回開催した。 ・むこうビブリオ部…ビブリオバトルを2回開催した。 (図書館) 天文館においては、プラネタリウム新番組の導入、専門家による講演会やコンサート、観望会の開催など、天文への興味・関心を高める事業を実施し学習機会の充実を図った。 (天文館)	A	生涯学習課
進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手			
目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
誰もが、いつでもどこでも、生涯にわたって学ぶことができ、その成果を活かすことのできるまち	・資料の充実を図ることにあわせホームページ等を工夫して広く図書など資料の情報提供を実施した結果、約30万点弱の貸出につながった。市民の教養、調査研究などに活用していただくことで、学びの機会を提供することができた。 ・図書提供や講座の実施などを行い、ボランティア活動を支援し、おはなし会や本の修理などをとおして、それぞれの学びの成果を活かしていただいた。 (図書館) 中央公民館及び地区公民館において、生涯学習講座や、市民文化展及び公民館クラブ・サークル学習発表会を開催し、学習の場の提供や、文化活動の活性化が図れた。	A	生涯学習課
達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない			

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり			
施策分野11 生涯学習の推進			
施策2 家庭・地域社会の教育力の向上 基本方向 ○家庭教育はすべての教育の出発点であり、その担い手である保護者自身が学ぶための学習機会の充実に努めます。 ○学校・家庭・地域社会が連携して、様々な活動を通して地域の絆を強め、地域全体で子どもたちをはぐくむ環境づくりを推進します。			
取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
就学前からの子どもの発達に応じた家庭教育に関する学習機会の提供	家庭の教育力向上のため、子どもを持つ保護者等を対象に「笑顔の子育て講座」と題してアンガーマネジメントやアサーションについて学ぶ家庭教育講座を開催した。	A	生涯学習課
地域ぐるみで子どもを育てる体制づくり	地域学校協働活動推進事業の実施や、向日市青少年健全育成連絡協議会、PTAなど社会教育関係団体へ支援することにより、家庭や地域社会、学校の連携を進めた。	A	生涯学習課
進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手			
目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
地域社会全体で子どもを包み込みはぐくむまち	地域学校協働活動推進事業や、様々な青少年関係団体等で構成する向日市青少年健全育成連絡協議会において、互いに地域状況等について情報交換を行うことなどにより、家庭や地域社会、学校の連携が図れた。	A	生涯学習課
学校支援地域本部事業を全市立小中学校(9校)で実施 【H27:6校 → H31:9校】	家庭や地域社会の協力及び学校との連携により、全市立小中学校の9校で地域学校協働活動推進事業を実施した。	済	生涯学習課
達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない			

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野11 生涯学習の推進

施策3 市民文化の振興

基本方向

○市民の自主的な芸術や文化活動に対する支援を行うとともに、文化事業の充実を図る等、優れた芸術文化に触れる機会の提供に努めます。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
文化事業の充実	文化活動の拠点である市民会館が休館しているため、更なる文化施策は実施できていないが、近隣施設や他の公共施設を活用しながら、市民の皆様の芸術文化に触れる機会の充実に努めることができた。	B	広聴協働課
進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手			

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
文化活動を通じて、生きがいと誇りを持つことができるまち	市民音楽祭をコーラスとアンサンブルの2部構成で開催し、市民サークルや京都西山高校の生徒ら17組が出演した。また、乙訓文化芸術祭「日本舞踊への招待」を開催し、乙訓地域から11団体が出演した。 市民音楽祭や乙訓文化芸術祭の開催を通じて、多くの方が文化活動に触れることができた。 【観客数】・市民音楽祭 H30 約600人 ⇒ R1 約560人 ・乙訓文化芸術祭 H30 約280人 ⇒ R1 約270人	A	広聴協働課
貴重な歴史・文化資源を受け継ぎ、大切に守り育て、未来に継承するまち	長岡京時代の宮廷衣裳に身を包み会場を練り歩く「大極殿衣裳行列」を向日市まつりにおいて再現することで、多くの来場者が市の歴史に思いを馳せる機会を提供することができた。	A	広聴協働課
達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない			

施策の柱Ⅱ 人と暮らしに明るくやさしいまちづくり

施策分野12 生涯スポーツの振興

施策1 スポーツの振興

基本方向

○市民が健康で心豊かに暮らせるよう、市民一人一人のライフステージに応じたスポーツ活動の推進とスポーツに親しめる環境の充実に努めます。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
公益財団法人向日市スポーツ文化協会等との連携によるライフステージに応じたスポーツ活動の推進	「スポーツ交流フェア」等を実施することにより、さまざまな世代を対象として、スポーツに親しめる機会の提供や環境づくりを推進することができた。また、府内にある3つのプロスポーツとのフレンドシップ協定に基づき、市民を試合に招待するなどスポーツに親しめる機会の提供に努めた。	A	生涯学習課
防災拠点としての機能を備えた多目的グラウンドの整備検討	整備を検討するにあたり、用地や財源などの課題の抽出を行っている。	A	生涯学習課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
自らの意欲や健康状態に応じて、誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち	公益財団法人向日市スポーツ文化協会と連携し、市民総合体育大会や向日市立学校等体育施設開放事業の実施をはじめ、フレンドシップ協定を活用した事業の実施や、スポーツ推進委員を各地区のスポーツ事業に指導者として派遣するなど、ライフステージに応じたスポーツ環境の充実に取り組んだ。	A	生涯学習課
成人の週1回以上のスポーツ実施率【H26:40.8% → H31:50%】	アンケート調査を実施した結果、成人の週1回以上のスポーツ実施率は、「52.2%」であった。	済	生涯学習課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅲ 信頼と協働で市民の声が届くまちづくり

施策分野1 市民協働の推進

施策1 市民のまちづくり参加の仕組みの構築

基本方向

○まちづくりの取組及び事業計画の企画・立案段階から市民の意見や意向を把握し、参画できる仕組みを構築します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
誰もがわかりやすく、利用しやすいホームページの作成や広報紙の充実	ホームページにおいて、災害等の緊急時における情報集約ページを作成し、情報発信の仕組みを整えた。 広報誌において、市の行事をはじめ、ボランティア活動や市内関連機関の紹介などカラー写真を活用する等効果的に表現し、誰もがわかりやすい紙面を作成した。	A	企画広報課
市民に対する情報発信体制の充実	SNSサービス「LINE」を活用し、イベントなどの情報発信を行っている。 お友達登録者数 1,870人 情報発信回数 17.9回／月	A	企画広報課
市民モニター制度の創設など広聴体制の充実	男女共同参画に関する市民意識調査を実施した。 市民意識調査 令和2年1月実施	A	広聴協働課
地域コミュニティの活性化	市民の自治意識の高揚及び自主的で健全な自治会活動を促進するため、8行政区（自治会）への自治振興補助金を交付した。 また、自治会が主体となり、地域の活性化を目的とし、住民相互の交流を図る活動や、自治会から市民への情報発信手段の整備等、自治会の独自事業として地域振興のために必要な事業に対してがんばる地域応援補助金を交付した。 なお、加入率については、向上とはならなかったが、概ね現状維持を保つことができた。	B	総務課
市民協働の拠点施設の見直し	本市で行われている市民活動の状況を把握するとともに、他施設の利用条件や利用状況を分析しているが、まだ具体的な見直しには至っていない。	B	広聴協働課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
市民と行政が協働し、知恵と力を結集してまちづくりを進めることができるまち	広報紙において、市の魅力を伝える特集記事や市政情報等をよりわかりやすく伝えるトピックス、「わが家のアイドル」「市民の情報掲示板」など市民発信型情報の掲載等、幅広い世代に親しんでいただける内容を掲載した。（企画広報課） 主体的にまちづくりを行っていく人材の発掘や育成を目的に講座の開催を行ったほか、市民発意による事業を実施するなど市民活動を支援することができた。（広聴協働課）	A	企画広報課 広聴協働課
ホームページや広報紙における「市民発信型情報」の掲載	広報紙において「わが家のアイドル」で市民から寄せられたお子様の写真、メッセージを掲載し、また「情報掲示板」で市民から寄せられた情報をまとめ掲載した。また、市公式インスタグラムでは、「あなたが思う向日市のいいところ」をテーマに写真を募集し、数多く投稿いただいた。 わが家アイドル掲載数 20件 インスタグラム投稿件数 229件	A	企画広報課
LINEを活用した市民アンケートの実施 お友達登録者総数 【H28: ー →H31:1,500人】	お友達登録者総数 1,870人 であり、目標を達成することができた。	済	広聴協働課
「市民と行政における協働のまちづくり」に対する満足度の向上 【アンケート調査における満足度数値：H27:2.86 → H31:3.00】	向日市のまちづくりに関する市民アンケートにおいて、「市民と行政の協働のまちづくり」についての満足度は2.86であり、目標に届かなかった。	B	広聴協働課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅲ 信頼と協働で市民の声が届くまちづくり

施策分野1 市民協働の推進

施策2 市民交流の推進

基本方向

○観光等における市民を主体とした体験型の交流を進めます。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
都市間交流の推進	綾部市との友好交流ウオーキングの実施 ・参加者数:227人 相互交流宣言に基づく、京都市との交流事業の実施 ・竹結びフェスタ(京都市西京区) 参加者数:11,000人	A	秘書課
国際交流事業の推進	市長を団長とする公式親善訪問団3人と、向日・サラトガ姉妹都市協会の訪米団一行22人が、サラトガ市を訪問し、姉妹都市盟約締結35周年記念式典に出席するなど、サラトガ市との交流を深めた。 タイ王国の「ブッサーバー少女舞踊団」と「アート・アソシエーション」の青少年芸術団員が向日市を表敬訪問し、第3向陽小学校で伝統芸能を披露したり、児童らと一緒に給食を食べるなど、姉妹都市や友好都市以外の国とも国際交流を図ることができた。	A	秘書課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
市民が市民交流に意欲を持ち、市民同士が自ら交流事業を行えるまち	綾部市との友好交流ウオーキングでは、46人の綾部市民が向日市を訪れ、向日市民とともにウオーキングをすることで、市民同士の交流を図ることができている。 また、タイ王国については姉妹都市盟約は結んでいないが、毎年、本市の異なる小学校を訪問いただいていることで、多くの子どもたちが国際交流を体験できている。	A	秘書課
友好交流を通じた「ふるさと向日市」の再発見につなげる事業の展開	京都市との共催で「竹結びフェスタ」を実施することにより、多くの方々にご参加いただけるとともに、「竹の径かぐやの夕べ」を同時開催したことで、「ふるさと向日市」の魅力を市内外にPRすることができている。	A	秘書課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅲ 信頼と協働で市民の声が届くまちづくり

施策分野2 人権・平和・男女共同参画の推進

施策1 多様性を認め合う社会の実現

基本方向

○市民一人一人が人権について、学び、考え、実践していくことにより、人権という普遍的文化が構築できるよう、人権教育・啓発事業に取り組むとともに、世界平和都市宣言の理念の実現に向け、平和施策を推進します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
人権教育・啓発推進計画の見直し及び推進	人権問題の解決に向けた取組として、8月の人権強調月間や12月の人権週間に合わせて実施する人権イベントにおいて、「部落差別解消推進法」、「ヘイトスピーチ解消法」、「障がい者差別解消法」などについて、周知・啓発を行った。 また、身元調査のために住民票を不正取得するなど、個人の権利侵害を防ぐため、住民票などを第三者に交付した場合、その事実をお知らせする「事前登録型本人通知制度」の周知に努め、登録数の増加を図った。 登録者数 H30 1,001人 ⇒ R1 1,095人 (広聴協働課) 「第2次向日市人権教育・啓発推進計画」に基づき、人権教育の推進を図るため、社会教育関係者をはじめ、誰もが人権について学ぶことができるよう、部落差別(同和問題)やLGBTに関する人権研修会を実施した。(生涯学習課)	A	広聴協働課 生涯学習課
広域行政による人権教育・啓発の推進	法務局、京都府及び府内市町村、並びに乙訓人権擁護委員協議会等と連携を図りながら、人権フェスタや人権の花運動、情報誌の発行、街頭啓発活動などを継続的に実施し、幅広く人権教育・啓発の推進が図れた。	A	広聴協働課
平和行動計画に基づいた事業の展開	「平和と人権のつどい」において、外見からわかる先天性の障がいがある少年が、困難に立ち向かう姿を描いた映画「ワンダー 君は太陽」を上映し、多くの人が関心を寄せ、一人ひとりが人権について考える貴重な機会を提供するとともに、映画の題材と合わせた人権パネルの設置や平和パネル展を同時に実施し、平和と人権について効果的に啓発をすることができた。 また、広島市平和祈念式への市民代表派遣と併せて、市民の皆様から寄せられた折り鶴を広島市平和記念公園の「原爆の子の像」に奉納した。	A	広聴協働課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
お互いの人権を尊重し合い、共に生きることができるまち	「第2次向日市人権教育・啓発推進計画」や「第7期向日市平和行動計画」に基づき、人権・平和に関する事業を継続的に実施することで、市民の皆様の人権・平和意識の高揚が図られている。	A	広聴協働課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅲ 信頼と協働で市民の声が届くまちづくり

施策分野2 人権・平和・男女共同参画の推進

施策2 男女共同参画社会の実現

基本方向

○男女の人権が等しく尊重され、あらゆる場において性別にかかわらず誰もがいきいきと暮らすことができる男女共同参画社会の実現を目指します。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
男女共同参画拠点(女性センター)の整備		済	広聴協働課
女性活躍推進事業の充実	向日市女性活躍センターあすもあを拠点とした、「みつける・あつめる・つながる むこうし」プロジェクトを継承し、参加者同士が交流を図り、その個性や能力を十分に発揮し、自分らしく女性が活躍できる環境を創出することができた。 また、向日市で活躍している女性を講師に迎えるなど、女性の夢やキャリアアップを応援するため「ハッピーキャリアプロジェクト」を開催した。	A	広聴協働課
ワーク・ライフ・バランスの普及・推進	働き方の多様化が進む中、これまでの働き方に左右されず、テレワークの場としても活用できるように、女性活躍センターにコワーキングスペースを設け、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組を進めることができた。	A	広聴協働課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
男女が共に活躍できるまち	男女共同参画記念講演会や女と男のいきいきフォーラムの開催、向日市女性活躍センターの利用などを通じて、男女が支え合い、お互いの存在を高め合い、多様な生き方を認め合って、誰もがいきいきと暮らすことができる向日市の実現に向けた取組が推進できている。	A	広聴協働課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

施策の柱Ⅲ 信頼と協働で市民の声が届くまちづくり

施策分野3 行財政運営力の向上

施策1 健全で持続可能な行財政運営の推進

基本方向

○将来に渡って安定した行政サービスを行えるよう、変化する社会情勢や多様な市民ニーズに対応できる効果的・効率的な行財政運営を進めます。

取組	令和元年度実績	進捗状況	担当課
行政手続きの電子化による効率的な行財政運営の推進	コンビニ交付実施について、個人番号カードの申請率や他市町村の実績、国や近隣市町村の動向を注視し、地方公共団体情報システム機構(J-LIS)にコンビニ交付導入に係る資料請求を行い検討した結果、費用対効果の観点から見送ることとした。	B	市民課
公共施設等総合管理計画の策定と推進	施設の総合的かつ計画的な維持管理や更新等を行うためには、各組織間で横断的に情報を共有することが不可欠であることから、各施設の所管部署と連携し、公共施設等の利活用や適切な維持管理に関する事項の検討を行った。 旧第2保育所の解体工事が竣工し、担当部局による調整により跡地に民間保育園を開園することができた。 旧市民会館についても解体工事が無事竣工した。旧市民会館跡地については、消防署移転などの整備といった公共施設の利活用に係る有効策の検討を行い、実行に移しているところである。	B	総務課
市役所本館と市民会館との複合施設化	新庁舎建設予定地の造成工事、埋蔵文化財発掘調査、新庁舎の実施設計が完了し、新庁舎建設工事に着手した。	A	公共建物整備課
市役所別館・西別館等の改修	公用車駐車場や議長車庫などを整備した。	A	公共建物整備課
健全財政の維持	事務の点検を行い経費の節減に努めるとともに、積極的な特定財源の確保及び交付税措置のある有利な地方債の借入れに努めた。	A	財政課

進捗状況 「済」…完了 「S」…計画以上に進んでいる 「A」…計画どおり進んでいる 「B」…計画より遅れている 「C」…未着手

目指す姿・目標	令和元年度実績	達成状況	担当課
市民が満足できる行政サービスが提供できるまち	老朽化の進行と耐震基準が不足している市役所庁舎の建て替えについて、向日市新庁舎整備に係る造成工事をはじめとする関連工事を行うとともに、旧市民会館についても解体工事が無事竣工した。旧市民会館跡地については、消防署移転などの整備といった公共施設の利活用に係る有効策の検討を行い、実行に移しているところである。(総務課) 平成31年4月及び令和2年3月の転入・転出等異動の多い時期に合わせ、一部の土日を開庁し、柔軟な窓口体制を確保した。 仕事の都合などで開庁時間に窓口来庁が困難な方のために毎月第4金曜日(12月は第3金曜日、3月は休日開庁を実施するため実施なし)に窓口業務の時間延長を実施した。来庁者数は前年度より112件増加して347件であり、市民の方々に定着しつつある。(市民課)	A	総務課 市民課
健全な財政指標の維持	健全化判断比率 実質赤字比率 連結実質赤字比率 実質公債費比率 将来負担比率 R1 H30 H29 H28 (早期健全化基準) ／ — — — (13.16) ／ — — — (18.16) ／ 3.0 1.8 2.3 (25.0) ／ — — 1.7 (350.0) R1 H30 H29 財政力指数(3か年平均) 0.722 0.724 0.719 財政調整基金残高(令和元年度決算見込み) 19億 77百万円	A	財政課
住民票や印鑑登録証明等のコンビニ交付開始 H31:個人番号カードの普及率と費用対効果を勘案し、状況に応じて開始	コンビニ交付の利用率向上を図るためには、個人番号カードの普及が必須。その申請率(令和2年3月31日時点で約15.9%)や他市町村の実績、国の動向にも注視し、導入費用及び運用費用を考慮した結果、実施を見送った。	B	市民課
新しい市役所庁舎及び市民会館の複合化・高層化による合理的な施設整備 【H31:建設工事着手】	市民会館建設までを想定した新庁舎実施設計を完了させ、新庁舎建設工事を着工した。	A	公共建物整備課

達成状況 「済」…達成 「S」…計画以上に成果が出ている 「A」…計画どおり成果が出ている 「B」…計画どおりではないが一定成果が出ている 「C」…成果が出ていない

令和元年度地方創生推進交付金事業実績について

資料 3

- 本交付金は、地方創生に資する先駆的な取組の円滑な支援を目的に国から交付されたものです。
- 本交付金を活用した事業の効果については、目標数値を設定し、その達成度合いを検証することが求められていることから、本交付金を活用した次の事業について検証を実施するものです。

(地方創生推進交付金)

交付対象事業名	事業概要	事業内容	事業実績額	目標/実績数値	評価
精神障がい者等社会参加促進事業	障がいをもった方々の社会参加を促進する施策を推進することによって、限られた人口の中での地域経済の循環促進と地域消費の拡大、ひいては総活躍社会の醸成を目指す「インクルーシブソサイエティ(共生で賑わう社会)推進事業(京都府広域連携事業)」の一事業として実施する。	・ 精神障がい者相談支援事業 ・ 心の健康相談 ・ グループワーク「にじ」	3,550千円	(目標) ①計画相談支援作成率 H31: 100% ②就労移行支援事業所の利用者数 H31: 11人 ↓ (H31実績) ① 100% ② 14人	精神障がい者等に対する相談事業を実施し、情報提供、社会資源活用や、社会生活力を高めるための支援を行う他、心の健康で悩んでおられる方やその家族等への精神保健福祉士の相談対応や、ゲームや料理作り・体操・創作などの活動を通じて、仲間同士の交流と社会参加のきっかけづくりを行うなど、精神障がいをもった方々等の社会参加を促進することができた。 →目標数値達成に有効

ふるさと向日市創生計画委員会 委員

令和2年8月21日現在

	役職、団体等	氏名
委員長	神戸国際大学経済学部 教授	中村 智彦
委員	向日市観光協会 会長	西川 克巳
	向日市商工会 会長	高橋 信吾
	京都府山城広域振興局 副局長	中地 則元
	京都銀行 向日町支店長	大浦 博昭
	連合京都乙訓地域協議会 三菱電機労働組合京都支部書記長	船倉 哲生
	京都リビング新聞社 編集長	山舗 恵子
	公募市民	松井 恒夫
	公募市民	青山 智圭子
	公募市民	大釜 章代